

エネルギー理工学専攻

＜前期課程＞

| 科目区分 | 授業形態 | 授業科目 | 担当教員 | 単位数 | 開講時期 |
|-----------------------|----------------------|---|---|---------------|-----------|
| 基礎科目 | セミナー 講義 実験・演習 | 現代エネルギー・環境論 | 各教員（エネルギー理工学専攻） | 2 | 1年前期，2年前期 |
| | | エネルギー基礎工学 | 各教員（エネルギー理工学専攻） | 2 | 1年前期，2年前期 |
| 主 専 攻 科 目 | セ ミ ナ ー | エネルギー材料デバイス工学セミナー1A | 吉田 隆 教授，藤田 隆明 教授，庄司 多津男 准教授，一野 祐亮 准教授，有本 英樹 助教 | 2 | 1年前期 |
| | | エネルギー材料デバイス工学セミナー1B | 吉田 隆 教授，藤田 隆明 教授，庄司 多津男 准教授，一野 祐亮 准教授，有本 英樹 助教 | 2 | 1年後期 |
| | | エネルギー材料デバイス工学セミナー1C | 吉田 隆 教授，藤田 隆明 教授，庄司 多津男 准教授，一野 祐亮 准教授，有本 英樹 助教 | 2 | 2年前期 |
| | | エネルギー材料デバイス工学セミナー1D | 吉田 隆 教授，藤田 隆明 教授，庄司 多津男 准教授，一野 祐亮 准教授，有本 英樹 助教 | 2 | 2年後期 |
| | | 熱エネルギーシステム工学セミナー1A | 松田 仁樹 教授，辻 義之 教授，伊藤 高啓 准教授，出口 清一 講師，窪田 光宏 助教 | 2 | 1年前期 |
| | | 熱エネルギーシステム工学セミナー1B | 松田 仁樹 教授，辻 義之 教授，伊藤 高啓 准教授，出口 清一 講師，窪田 光宏 助教 | 2 | 1年後期 |
| | | 熱エネルギーシステム工学セミナー1C | 松田 仁樹 教授，辻 義之 教授，伊藤 高啓 准教授，出口 清一 講師，窪田 光宏 助教 | 2 | 2年前期 |
| | | 熱エネルギーシステム工学セミナー1D | 松田 仁樹 教授，辻 義之 教授，伊藤 高啓 准教授，出口 清一 講師，窪田 光宏 助教 | 2 | 2年後期 |
| | | プラズマエネルギー理工学セミナー1A | 久保 伸 教授，大野 哲靖 教授，渡邊 清政 教授，中村 浩章 教授，井戸 毅 准教授，梶田 信 准教授，栗原 竜弥 助教 | 2 | 1年前期 |
| | | プラズマエネルギー理工学セミナー1B | 久保 伸 教授，大野 哲靖 教授，渡邊 清政 教授，中村 浩章 教授，井戸 毅 准教授，梶田 信 准教授，栗原 竜弥 助教 | 2 | 1年後期 |
| | | プラズマエネルギー理工学セミナー1C | 久保 伸 教授，大野 哲靖 教授，渡邊 清政 教授，中村 浩章 教授，井戸 毅 准教授，梶田 信 准教授，栗原 竜弥 助教 | 2 | 2年前期 |
| | | プラズマエネルギー理工学セミナー1D | 久保 伸 教授，大野 哲靖 教授，渡邊 清政 教授，中村 浩章 教授，井戸 毅 准教授，梶田 信 准教授，栗原 竜弥 助教 | 2 | 2年後期 |
| | | エネルギー環境工学セミナー1A | 山澤 弘実 教授，森泉 純 准教授，平尾 茂一 助教 | 2 | 1年前期 |
| | | エネルギー環境工学セミナー1B | 山澤 弘実 教授，森泉 純 准教授，平尾 茂一 助教 | 2 | 1年後期 |
| | | エネルギー環境工学セミナー1C | 山澤 弘実 教授，森泉 純 准教授，平尾 茂一 助教 | 2 | 2年前期 |
| | | エネルギー環境工学セミナー1D | 山澤 弘実 教授，森泉 純 准教授，平尾 茂一 助教 | 2 | 2年後期 |
| | 国際協働プロジェクトセミナー I | 各教員 | 2～4 | 1年前期後期，2年前期後期 | |
| | 講 義 | 超伝導工学基礎論 | 吉田 隆 教授，一野 祐亮 准教授 | 2 | 1年後期，2年後期 |
| | | エネルギー熱流体工学特論 | 辻 義之 教授，伊藤 高啓 准教授 | 2 | 1年後期，2年後期 |
| | | 熱エネルギー変換工学基礎論 | 松田 仁樹 教授，出口 清一 講師 | 2 | 1年前期，2年前期 |
| | | エネルギー環境安全工学特論 | 山澤 弘実 教授，森泉 純 准教授 | 2 | 1年後期，2年後期 |
| | | プラズマ物性工学 | 大野 哲靖 教授，庄司 多津男 准教授，梶田 信 准教授 | 2 | 1年前期，2年前期 |
| | | 高エネルギー電子分光特論 | 武藤 俊介 教授，巽 一徹 准教授 | 2 | 1年後期 |
| | | 核融合プラズマ波動・輸送基礎論 | 久保 伸 教授，井戸 毅 准教授 | 2 | 1年前期，2年前期 |
| | | 熱流体物理特論 | 中村 浩章 教授 | 2 | 2年前期 |
| | | 材料システム工学特論 | 田邊 靖博 教授 | 2 | 1年前期 |
| | | エネルギー科学特論 | 藤田 隆明 教授 | 2 | 1年前期 |
| | | 核融合炉システム工学 | 藤田 隆明 教授，杉山 貴彦 准教授 | 2 | 1年後期 |
| | | エネルギー環境工学特論 | 鈴置 保雄 教授，加藤 丈佳 准教授 | 2 | 1年後期，2年後期 |
| | | エネルギーシステム工学特論 | 松村 年郎 教授，横水 康伸 准教授 | 2 | 1年前期，2年前期 |
| | | 超伝導応用工学特論 | 早川 直樹 教授，小島 寛樹 准教授 | 2 | 1年前期，2年前期 |
| | | プロセスプラズマ工学特論 | 豊田 浩孝 教授 | 2 | 2年前期 |
| 反応プロセス工学特論 | | 田川 智彦 教授，小林 敬幸 准教授 | 2 | 2年前期 | |
| 機械的分離プロセス工学特論 | | 入谷 英司 教授，向井 康人 准教授 | 2 | 1年前期 | |
| 拡散プロセス工学特論 | | 後藤 元信 教授，二井 晋 准教授 | 2 | 2年後期 | |
| プロセスシステム工学特論 | | 小野木 克明 教授，橋爪 進 講師 | 2 | 2年後期 | |
| 資源・環境学特論 | | 堀添 浩俊 教授，安田 啓司 准教授 | 2 | 1年後期 | |
| エネルギー量子制御工学特論 | | 山本 章夫 教授 | 2 | 1年後期，2年後期 | |
| 中性子・原子核科学特論 | | 瓜谷 章 教授，渡辺 賢一 准教授，小島 康明 講師 | 2 | 1年前期 | |
| エネルギー理工学特別講義 | | 各教員（エネルギー理工学専攻） | 2 | 1年前期，2年前期 | |
| 実 験 ・ 演 習 | | エネルギー材料デバイス工学特別実験及び演習 | 吉田 隆 教授，藤田 隆明 教授，庄司 多津男 准教授，一野 祐亮 准教授，有本 英樹 助教 | 2 | 1年前期後期 |
| | 熱エネルギーシステム工学特別実験及び演習 | 松田 仁樹 教授，辻 義之 教授，伊藤 高啓 准教授，出口 清一 講師，窪田 光宏 助教 | 2 | 1年前期後期 | |
| | プラズマエネルギー理工学特別実験及び演習 | 久保 伸 教授，大野 哲靖 教授，渡邊 清政 教授，中村 浩章 教授，井戸 毅 准教授，梶田 信 准教授，栗原 竜弥 助教 | 2 | 1年前期後期 | |
| | エネルギー環境工学特別実験及び演習 | 山澤 弘実 教授，森泉 純 准教授，平尾 茂一 助教 | 2 | 1年前期後期 | |
| | 研究発表技術及び演習 | 各教員（エネルギー理工学専攻） | 1 | 2年後期 | |

| 科目区分 | 授業形態 | 授業科目 | 担当教員 | 単位数 | 開講時期 |
|--|---------------------|--|-----------------------|----------------|----------------|
| 副専攻科目 | セミナー 講義 実験・演習 | 当該専攻以外の工学研究科専攻で開講されている授業科目のうち、指導教員並びに専攻長が認めた科目 | | | |
| 総合工学科目 (*印はリーディング大学院科目) | | 高度総合工学創造実験 | 田川 智彦 教授 | 3 | 1年前期後期, 2年前期後期 |
| | | 研究インターンシップ 1 | 田川 智彦 教授 | 2~8 | 1年前期後期, 2年前期後期 |
| | | 最先端理工学特論 | 永野 修作 准教授 | 1 | 1年前期後期, 2年前期後期 |
| | | 最先端理工学実験 | 永野 修作 准教授 | 1 | 1年前期後期, 2年前期後期 |
| | | コミュニケーション学 | 古谷 礼子 准教授 | 1 | 1年後期, 2年後期 |
| | | 先端自動車工学特論 | 未定 | 3 | 1年前期, 2年前期 |
| | | 科学技術英語特論 | 非常勤講師 | 1 | 1年後期, 2年後期 |
| | | ベンチャービジネス特論 I | 永野 修作 准教授 | 2 | 1年前期, 2年前期 |
| | | ベンチャービジネス特論 II | 永野 修作 准教授, 枝川 明敬 客員教授 | 2 | 1年後期, 2年後期 |
| | | 学外実習 A | 各教員 (エネルギー理工学専攻) | 1 | 1年前期後期, 2年前期後期 |
| | | 宇宙研究開発概論* (フロンティア宇宙開拓リーダー養成プログラム) | リーディング大学院事業 各推進担当者 | 2 | 1年前期, 2年前期 |
| | | 実世界データ解析学特論* (実世界データ循環学リーダー人材養成プログラム) | リーディング大学院事業 各推進担当者 | 2~3 | 1年後期 |
| | | 実世界データ循環システム特論 I* (実世界データ循環学リーダー人材養成プログラム) | リーディング大学院事業 各推進担当者 | 2 | 2年前期 |
| | | 国際プロジェクト研究 | 各教員 | 2~4 | 1年前期後期, 2年前期後期 |
| | 国際協働教育特別講義 | 未定 | 1 | 1年前期後期, 2年前期後期 | |
| | 国際協働教育外国語演習 | 未定 | 1 | 1年前期後期, 2年前期後期 | |
| 他研究科等科目 | | 本学大学院の他の研究科で開講される授業科目, 大学院共通科目, 単位互換協定による他の大学院の授業科目又は工学研究科入学時において当該学生が未履修の学問分野に関する本学学部の授業科目のうち、指導教員及び専攻長が認めた科目 | | | |
| 研究指導 | | | | | |
| 履修方法及び研究指導 | | | | | |
| <p>1. 以下の一~四の各項を満たし、合計30単位以上</p> <p>一 主専攻科目:</p> <p>イ 基礎科目2単位以上</p> <p>ロ 主分野科目の中から、セミナー4単位、講義2単位、実験・演習3単位、エネルギー理工学特別講義2単位を含む13単位以上</p> <p>二 副専攻科目の中から2単位以上</p> <p>三 総合工学科目は4単位までを修了要件単位として認め、4単位を超えた分は随意科目の単位として扱う</p> <p>四 他研究科等科目は4単位までを修了要件単位として認め、4単位を超えた分は随意科目の単位として扱う</p> <p>2. 研究指導については、専攻において定めるところにより、指導教員の指示によること</p> | | | | | |

エネルギー理工学専攻

＜後期課程＞

| 科目区分 | 授業形態 | 授業科目 | 担当教員 | 単位数 | 開講時期 | | |
|--|--|------------------------------------|---|--|------|------------------|--|
| 主 専 攻 科 目 | セ ミ ナ ー | エネルギー材料デバイス工学セミナー2A | 吉田 隆 教授, 藤田 隆明 教授, 庄司 多津男 准教授, 一野 祐亮 准教授, 有本 英樹 助教 | 2 | 1年前期 | | |
| | | エネルギー材料デバイス工学セミナー2B | 吉田 隆 教授, 藤田 隆明 教授, 庄司 多津男 准教授, 一野 祐亮 准教授, 有本 英樹 助教 | 2 | 1年後期 | | |
| | | エネルギー材料デバイス工学セミナー2C | 吉田 隆 教授, 藤田 隆明 教授, 庄司 多津男 准教授, 一野 祐亮 准教授, 有本 英樹 助教 | 2 | 2年前期 | | |
| | | エネルギー材料デバイス工学セミナー2D | 吉田 隆 教授, 藤田 隆明 教授, 庄司 多津男 准教授, 一野 祐亮 准教授, 有本 英樹 助教 | 2 | 2年後期 | | |
| | | エネルギー材料デバイス工学セミナー2E | 吉田 隆 教授, 藤田 隆明 教授, 庄司 多津男 准教授, 一野 祐亮 准教授, 有本 英樹 助教 | 2 | 3年前期 | | |
| | | 熱エネルギーシステム工学セミナー2A | 松田 仁樹 教授, 辻 義之 教授, 伊藤 高啓 准教授, 出口 清一 講師, 窪田 光宏 助教 | 2 | 1年前期 | | |
| | | 熱エネルギーシステム工学セミナー2B | 松田 仁樹 教授, 辻 義之 教授, 伊藤 高啓 准教授, 出口 清一 講師, 窪田 光宏 助教 | 2 | 1年後期 | | |
| | | 熱エネルギーシステム工学セミナー2C | 松田 仁樹 教授, 辻 義之 教授, 伊藤 高啓 准教授, 出口 清一 講師, 窪田 光宏 助教 | 2 | 2年前期 | | |
| | | 熱エネルギーシステム工学セミナー2D | 松田 仁樹 教授, 辻 義之 教授, 伊藤 高啓 准教授, 出口 清一 講師, 窪田 光宏 助教 | 2 | 2年後期 | | |
| | | 熱エネルギーシステム工学セミナー2E | 松田 仁樹 教授, 辻 義之 教授, 伊藤 高啓 准教授, 出口 清一 講師, 窪田 光宏 助教 | 2 | 3年前期 | | |
| | | プラズマエネルギー理工学セミナー2A | 久保 伸 教授, 大野 哲靖 教授, 渡邊 清政 教授, 中村 浩章 教授, 井戸 毅 准教授, 梶田 信 准教授, 栗原 竜弥 助教 | 2 | 1年前期 | | |
| | | プラズマエネルギー理工学セミナー2B | 久保 伸 教授, 大野 哲靖 教授, 渡邊 清政 教授, 中村 浩章 教授, 井戸 毅 准教授, 梶田 信 准教授, 栗原 竜弥 助教 | 2 | 1年後期 | | |
| | | プラズマエネルギー理工学セミナー2C | 久保 伸 教授, 大野 哲靖 教授, 渡邊 清政 教授, 中村 浩章 教授, 井戸 毅 准教授, 梶田 信 准教授, 栗原 竜弥 助教 | 2 | 2年前期 | | |
| | | プラズマエネルギー理工学セミナー2D | 久保 伸 教授, 大野 哲靖 教授, 渡邊 清政 教授, 中村 浩章 教授, 井戸 毅 准教授, 梶田 信 准教授, 栗原 竜弥 助教 | 2 | 2年後期 | | |
| | | プラズマエネルギー理工学セミナー2E | 久保 伸 教授, 大野 哲靖 教授, 渡邊 清政 教授, 中村 浩章 教授, 井戸 毅 准教授, 梶田 信 准教授, 栗原 竜弥 助教 | 2 | 3年前期 | | |
| | | エネルギー環境工学セミナー2A | 山澤 弘実 教授, 森泉 純 准教授, 平尾 茂一 助教 | 2 | 1年前期 | | |
| | | エネルギー環境工学セミナー2B | 山澤 弘実 教授, 森泉 純 准教授, 平尾 茂一 助教 | 2 | 1年後期 | | |
| | | エネルギー環境工学セミナー2C | 山澤 弘実 教授, 森泉 純 准教授, 平尾 茂一 助教 | 2 | 2年前期 | | |
| | | エネルギー環境工学セミナー2D | 山澤 弘実 教授, 森泉 純 准教授, 平尾 茂一 助教 | 2 | 2年後期 | | |
| | | エネルギー環境工学セミナー2E | 山澤 弘実 教授, 森泉 純 准教授, 平尾 茂一 助教 | 2 | 3年前期 | | |
| | | | 国際協働プロジェクトセミナーⅡ | 各教員 | 2~4 | 1年前期後期 2年前期後期 | |
| | | 副専攻科目 | セミナー 講義 実験・演習 | 当該専攻以外の工学研究科専攻で開講されている授業科目のうち、指導教員並びに専攻長が認めた科目 | | | |
| | | 総合工学科目 (*印はリー ディング大学院 科目) | 実験指導体験実習 1 | 田川 智彦 教授 | 1 | 1年前期後期 2年前期後期 | |
| 実験指導体験実習 2 | 永野 修作 准教授 | | 1 | 1年前期後期 2年前期後期 | | | |
| 研究インターンシップ 2 | 田川 智彦 教授 | | 2~8 | 1年前期後期 2年前期後期 | | | |
| 実世界データ循環システム特論II* (実世界データ循環学リーダー人材養成プログラム) | リーディング大学院事業 各推進担当者 | | 2 | 1年後期 | | | |
| 産学官プロジェクトワーク* (実世界データ循環学リーダー人材養成プログラム) | リーディング大学院事業 各推進担当者 | | 2 | 1年前期後期 | | | |
| 他研究科等科目 | 本学大学院の他の研究科で開講される授業科目、大学院共通科目、単位互換協定による他の大学院の授業科目又は工学研究科入学時において当該学生が未履修の学問分野に関する本学学部/大学院の授業科目のうち、指導教員及び専攻長が認めた科目 | | | | | | |
| 研究指導 | | | | | | | |
| 履 修 方 法 及 び 研 究 指 導 | | | | | | | |
| <p>1. 上記の授業科目及び前期課程の授業科目（既修のものを除く）の中から8単位以上 ただし、上表の主専攻科目セミナーの中から4単位以上</p> <p>2. 研究指導については、専攻において定めるところにより、指導教員の指示によること</p> | | | | | | | |

| 現代エネルギー・環境論 (2.0単位) | |
|---|-------------|
| 科目区分 | 主専攻科目 基礎科目 |
| 課程区分 | 前期課程 |
| 授業形態 | 講義 |
| 全専攻・分野 | エネルギー理工学専攻 |
| 開講時期1 | 1年前期 |
| 開講時期2 | 2年前期 |
| 教員 | 各教員 (エネルギー) |
| <p>●本講座の目的およびねらい 現在及び将来のエネルギーに係わる諸問題を認識するとともに、その解決法を見いだすための、基礎的な知識及び実際の各種技術について学ぶ。講義はオムニバス形式で行われる。達成目標 1. エネルギー・環境問題について深い議論ができる。 2. 各自の研究テーマをエネルギー・環境問題の中に位置づけ、正しい方向付けができる。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 熱力学、確率・統計</p> <p>●授業内容 1. エネルギーと地球環境問題 2. 電力エネルギー 省エネルギー技術と新エネルギー 3. 地球環境危機と未来エネルギー 4. エネルギーと環境保全技術 5. 地球環境のメカニズム 6. 環境中物質の動態解析と同位体 7. 熱電変換と環境 8. 超伝導を用いたエネルギー技術 9. プラズマを用いた環境技術 10. エネルギー・環境問題から見た 11. 核融合発電への要請と期待 12. プラズマ・核融合の基礎と核融合発電</p> <p>●教科書 なし</p> <p>●参考書 講義の際に指定する</p> <p>●評価方法と基準 毎回のレポートにより目標達成度を評価する。 〈平成23年度以降入・進学者〉 S: 100-90点, A: 89-80点, B: 79-70点, C: 69-60点, F: 59点以下 〈平成22年度以前入・進学者〉 A: 100-80点, B: 79-70点, C: 69-60点, D: 59点以下</p> <p>●履修条件・注意事項 ●質問への対応</p> | |

| エネルギー基礎工学 (2.0単位) | |
|---|-------------|
| 科目区分 | 主専攻科目 基礎科目 |
| 課程区分 | 前期課程 |
| 授業形態 | 講義 |
| 対象履修コース | エネルギー理工学専攻 |
| 開講時期1 | 1年前期 |
| 開講時期2 | 2年前期 |
| 教員 | 各教員 (エネルギー) |
| <p>●本講座の目的およびねらい エネルギー理工学の学問分野に学ぶ者の横断的基礎である熱物理化学の基礎を学習するとともに、熱物理化学の問題を題材にエネルギー領域の研究に有用である計算機を用いた数値解析及び時系列データ解析の基礎を、講義ならびに計算機を使用した演習を通じて習熟することを目的とする</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 熱力学、確率・統計、数値解析</p> <p>●授業内容 1. 講義の全般的事項 2. 熱力学の基礎 (理想気体、エントロピー、熱機関) 3. 熱力学の展開 (自由エネルギー、相転移、材料科学) 4. 熱ゆらぎと確率過程 5. 統計的手法に基づく熱ゆらぎの定量化 6. 熱・流体の数値計算の基礎</p> <p>●教科書 なし</p> <p>●参考書 熱と流れのシミュレーション (丸善) 河村洋/土方邦夫著 数値解析 (岩波書店) 高橋大輔著</p> <p>●評価方法と基準 試験とレポート 100点満点で60点以上を合格とする。 〈平成23年度以降入・進学者〉 S: 100-90点, A: 89-80点, B: 79-70点, C: 69-60点, F: 59点以下 〈平成22年度以前入・進学者〉 A: 100-80点, B: 79-70点, C: 69-60点, D: 59点以下</p> <p>●履修条件・注意事項 ●質問への対応</p> | |

| エネルギー材料デバイス工学セミナー1A (2.0単位) | |
|--|---|
| 科目区分 | 主専攻科目 主分野科目 |
| 課程区分 | 前期課程 |
| 授業形態 | セミナー |
| 対象履修コース | エネルギー理工学専攻 |
| 開講時期1 | 1年前期 |
| 教員 | 吉田 隆教授 藤田 隆明教授 庄司 多津男 准教授 一野 祐亮 准教授 有本 英樹 助教 |
| <p>●本講座の目的およびねらい 超伝導技術、エネルギー変換技術、プラズマ工学などエネルギー材料の基礎についてセミナーを行う。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 電気磁気学、物理学基礎、固体電子工学、原子炉材料学、プラズマ理工学</p> <p>●授業内容 1. エネルギー変換の化学と物理 2. エネルギー材料とプラズマ理工学</p> <p>●教科書 ●参考書 ●評価方法と基準 セミナー中での発表及び議論</p> <p>●履修条件・注意事項 ●質問への対応</p> | |

| エネルギー材料デバイス工学セミナー1B (2.0単位) | |
|--|---|
| 科目区分 | 主専攻科目 主分野科目 |
| 課程区分 | 前期課程 |
| 授業形態 | セミナー |
| 対象履修コース | エネルギー理工学専攻 |
| 開講時期1 | 1年後期 |
| 教員 | 吉田 隆教授 藤田 隆明教授 庄司 多津男 准教授 一野 祐亮 准教授 有本 英樹 助教 |
| <p>●本講座の目的およびねらい 超伝導技術、エネルギー変換技術、プラズマ工学などエネルギー材料の基礎についてセミナーを行う。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 電気磁気学、物理学基礎、固体電子工学、原子炉材料学、プラズマ理工学</p> <p>●授業内容 1. エネルギー変換の化学と物理 2. エネルギー材料とプラズマ理工学</p> <p>●教科書 ●参考書 ●評価方法と基準 セミナー中での発表及び議論</p> <p>●履修条件・注意事項 ●質問への対応</p> | |

| エネルギー材料デバイス工学セミナー1C (2.0単位) | |
|---|---|
| 科目区分 | 主専攻科目 主分野科目 |
| 課程区分 | 前期課程 |
| 授業形態 | セミナー |
| 対象履修コース | エネルギー理工学専攻 |
| 開講時期1 | 2年前期 |
| 教員 | 吉田 隆 教授 藤田 隆明 教授 庄司 多津男 准教授 一野 祐亮 准教授 有本 英樹 助教 |
| <p>●本講座の目的およびねらい 超伝導技術、エネルギー変換技術、プラズマ工学などエネルギー材料の基礎についてセミナーを行う。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 電気磁気学、物理学基礎、固体電子工学、原子炉材料学、プラズマ工学</p> <p>●授業内容 1. エネルギー変換の化学と物理 2. エネルギー材料とプラズマ工学</p> <p>●教科書</p> <p>●参考書</p> <p>●評価方法と基準 セミナー中での発表及び議論</p> <p>●履修条件・注意事項</p> <p>●質問への対応</p> | |

| エネルギー材料デバイス工学セミナー1D (2.0単位) | |
|---|---|
| 科目区分 | 主専攻科目 主分野科目 |
| 課程区分 | 前期課程 |
| 授業形態 | セミナー |
| 対象履修コース | エネルギー理工学専攻 |
| 開講時期1 | 2年後期 |
| 教員 | 吉田 隆 教授 藤田 隆明 教授 庄司 多津男 准教授 一野 祐亮 准教授 有本 英樹 助教 |
| <p>●本講座の目的およびねらい 超伝導技術、エネルギー変換技術、プラズマ工学などエネルギー材料の基礎についてセミナーを行う。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 電気磁気学、物理学基礎、固体電子工学、原子炉材料学、プラズマ工学</p> <p>●授業内容 1. エネルギー変換の化学と物理 2. エネルギー材料とプラズマ工学</p> <p>●教科書</p> <p>●参考書</p> <p>●評価方法と基準 セミナー中での発表及び議論</p> <p>●履修条件・注意事項</p> <p>●質問への対応</p> | |

| 熱エネルギーシステム工学セミナー 1A (2.0単位) | |
|--|---|
| 科目区分 | 主専攻科目 主分野科目 |
| 課程区分 | 前期課程 |
| 授業形態 | セミナー |
| 対象履修コース | エネルギー理工学専攻 |
| 開講時期1 | 1年前期 |
| 教員 | 松田 仁樹 教授 辻 義之 教授 伊藤 高啓 准教授 出口 清一 講師 窪田 光宏 助教 |
| <p>●本講座の目的およびねらい エネルギー変換、利用に関わる多様な熱流体現象について理解し、問題解決能力を高める。また、環境調和型廃棄物処理技術や蓄熱・ヒートポンプ技術などについても対象とする。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 流体力学、熱力学、伝熱工学、移動現象論</p> <p>●授業内容 関連の教科書及び文献の輪講</p> <p>●教科書 なし</p> <p>●参考書 適宜、紹介する</p> <p>●評価方法と基準 レポート及び口頭発表 (S: 100~90点, A: 89~80点, B: 79~70点, C: 69~60点, F: 59点以下)</p> <p>●履修条件・注意事項</p> <p>●質問への対応 適宜、質問を授業時間内および居室にて受け付ける</p> | |

| 熱エネルギーシステム工学セミナー 1B (2.0単位) | |
|--|---|
| 科目区分 | 主専攻科目 主分野科目 |
| 課程区分 | 前期課程 |
| 授業形態 | セミナー |
| 対象履修コース | エネルギー理工学専攻 |
| 開講時期1 | 1年後期 |
| 教員 | 松田 仁樹 教授 辻 義之 教授 伊藤 高啓 准教授 出口 清一 講師 窪田 光宏 助教 |
| <p>●本講座の目的およびねらい エネルギー変換、利用に関わる多様な熱流体現象について理解し、問題解決能力を高める。また、環境調和型廃棄物処理技術や蓄熱・ヒートポンプ技術などについても対象とする。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 流体力学、熱力学、伝熱工学、移動現象論</p> <p>●授業内容 関連の教科書及び文献の輪講</p> <p>●教科書 なし</p> <p>●参考書 適宜、紹介する</p> <p>●評価方法と基準 レポート及び口頭発表 (S: 100~90点, A: 89~80点, B: 79~70点, C: 69~60点, F: 59点以下)</p> <p>●履修条件・注意事項</p> <p>●質問への対応 適宜、質問を授業時間内および居室にて受け付ける</p> | |

| 熱エネルギーシステム工学セミナー 1C (2.0単位) | |
|--|---|
| 科目区分 | 主専攻科目 主分野科目 |
| 課程区分 | 前期課程 |
| 授業形態 | セミナー |
| 対象履修コース | エネルギー理工学専攻 |
| 開講時期1 | 2年前期 |
| 教員 | 松田 仁樹 教授 辻 義之 教授 伊藤 高啓 准教授 出口 清一 講師 窪田 光宏 助教 |
| <p>●本講座の目的およびねらい エネルギー変換、利用に関わる多様な熱流体現象について理解し、問題解決能力を高める。また、環境調和型廃棄物物理技術や蓄熱・ヒートポンプ技術などについても対象とする。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 流体力学、熱力学、伝熱工学、移動現象論</p> <p>●授業内容 関連の教科書及び文献の輪講</p> <p>●教科書 なし</p> <p>●参考書 適宜、紹介する</p> <p>●評価方法と基準 レポート及び口頭発表 (S: 100～90点, A: 89～80点, B: 79～70点, C: 69～60点, F: 59点以下)</p> <p>●履修条件・注意事項</p> <p>●質問への対応 適宜、質問を授業時間内および居室にて受け付ける</p> | |

| 熱エネルギーシステム工学セミナー 1D (2.0単位) | |
|--|---|
| 科目区分 | 主専攻科目 主分野科目 |
| 課程区分 | 前期課程 |
| 授業形態 | セミナー |
| 対象履修コース | エネルギー理工学専攻 |
| 開講時期1 | 2年後期 |
| 教員 | 松田 仁樹 教授 辻 義之 教授 伊藤 高啓 准教授 出口 清一 講師 窪田 光宏 助教 |
| <p>●本講座の目的およびねらい エネルギー変換、利用に関わる多様な熱流体現象について理解し、問題解決能力を高める。また、環境調和型廃棄物物理技術や蓄熱・ヒートポンプ技術などについても対象とする。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 流体力学、熱力学、伝熱工学、移動現象論</p> <p>●授業内容 関連の教科書及び文献の輪講</p> <p>●教科書 なし</p> <p>●参考書 適宜、紹介する</p> <p>●評価方法と基準 レポート及び口頭発表 (S: 100～90点, A: 89～80点, B: 79～70点, C: 69～60点, F: 59点以下)</p> <p>●履修条件・注意事項</p> <p>●質問への対応 適宜、質問を授業時間内および居室にて受け付ける</p> | |

| プラズマエネルギー理工学セミナー 1A (2.0単位) | |
|--|---|
| 科目区分 | 主専攻科目 主分野科目 |
| 課程区分 | 前期課程 |
| 授業形態 | セミナー |
| 対象履修コース | 電気工学分野 エネルギー理工学専攻 |
| 開講時期1 | 1年前期 1年前期 |
| 開講時期2 | 2年前期 |
| 教員 | 久保 伸 教授 大野 哲靖 教授 渡邊 清政 教授 中村 浩章 教授 井戸 毅 准教授 梶田 信 准教授 栗原 竜弥 助教 |
| <p>●本講座の目的およびねらい 核融合周辺プラズマ・ダイバータ領域の課題、核融合プラズマ中の熱・粒子輸送、磁化プラズマの安定性、プラズマ加熱の基礎に関するテキストや論文を選び、この分野の基礎理工学を深く理解する。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 電磁気学、プラズマ工学、力学、関連基礎物理</p> <p>●授業内容 1) 磁力線に沿ったプラズマの輸送: 2) ダイバータの磁気配位: 3) 速度分布関数: 4) 衝突緩和過程: 5) トーラス磁場中の粒子・熱拡散過程: 6) トーラスプラズマの磁気流体平衡と安定性</p> <p>●教科書</p> <p>●参考書</p> <p>●評価方法と基準 セミナーにおける口頭発表とそれに対する質疑応答により、目標達成度を評価する。総合点60点以上を合格とし、60点以上69点までをC、70点以上79点までをB、80点以上89点までをA、90点以上をSとする。但し、平成22年度以前の入・進学者については、80点以上をAとする。</p> <p>●履修条件・注意事項</p> <p>●質問への対応</p> | |

| プラズマエネルギー理工学セミナー 1B (2.0単位) | |
|---|---|
| 科目区分 | 主専攻科目 主分野科目 |
| 課程区分 | 前期課程 |
| 授業形態 | セミナー |
| 対象履修コース | 電気工学分野 エネルギー理工学専攻 |
| 開講時期1 | 1年後期 1年後期 |
| 開講時期2 | 2年後期 |
| 教員 | 久保 伸 教授 大野 哲靖 教授 渡邊 清政 教授 中村 浩章 教授 井戸 毅 准教授 梶田 信 准教授 栗原 竜弥 助教 |
| <p>●本講座の目的およびねらい 核融合周辺プラズマ・ダイバータ領域の課題、核融合プラズマ中の熱・粒子輸送、磁化プラズマの安定性、プラズマ加熱の基礎に関するテキストや論文を選び、この分野の基礎理工学を深く理解する。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 電磁気学、プラズマ工学、力学、関連基礎物理</p> <p>●授業内容 1) 水素リサイクリング過程: 2) 粒子・熱輸送制御: 3) プラズマと固体壁との相互作用: 4) 固体壁の損耗と不純物発生: 5) ジュール加熱: 6) ビーム入射加熱</p> <p>●教科書</p> <p>●参考書</p> <p>●評価方法と基準 セミナーにおける口頭発表とそれに対する質疑応答により、目標達成度を評価する。総合点60点以上を合格とし、60点以上69点までをC、70点以上79点までをB、80点以上89点までをA、90点以上をSとする。但し、平成22年度以前の入・進学者については、80点以上をAとする。</p> <p>●履修条件・注意事項</p> <p>●質問への対応</p> | |

| プラズマエネルギー理工学セミナー1C (2.0単位) | | |
|---|--|------------|
| 科目区分 | 主専攻科目 | 主分野科目 |
| 課程区分 | 前期課程 | |
| 授業形態 | セミナー | |
| 対象履修コース | 電気工学分野 | エネルギー理工学専攻 |
| 開講時期1 | 1年前期 | 2年前期 |
| 開講時期2 | 2年前期 | |
| 教員 | 久保 伸教授 大野 哲晴教授 渡邊 清政教授 中村 浩章教授 井戸 毅准教授 梶田 信准教授 兼原 竜弥助教 | |
| <p>●本講座の目的およびねらい 核融合周辺プラズマ・ダイバータ領域の課題、核融合プラズマ中の熱・粒子輸送、磁化プラズマの安定性、プラズマ加熱の基礎に関するテキストや論文を選び、この分野の基礎理工学を深く理解する。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 電磁気学、プラズマ工学、力学、関連基礎物理</p> <p>●授業内容 1. 周辺プラズマにおける統計的磁場、電流、電場の役割; 2. トカマクプラズマの平衡配位とその制御; 3. 閉じ込め磁場構造や各種プラズマ加熱法によるプラズマ分布制御; 4. 断熱圧縮加熱、波動伝搬; 5. 核融合プラズマの固体壁との相互作用</p> <p>●教科書 ●参考書</p> <p>●評価方法と基準 セミナーにおける口頭発表とそれに対する質疑応答により、目標達成度を評価する。総合点60点以上を合格とし、60点以上69点までをC、70点以上79点までをB、80点以上89点までをA、90点以上をSとする。但し、平成22年度以前の入・進学者については、80点以上をAとする。</p> <p>●履修条件・注意事項 ●質問への対応</p> | | |

| プラズマエネルギー理工学セミナー1D (2.0単位) | | |
|--|--|------------|
| 科目区分 | 主専攻科目 | 主分野科目 |
| 課程区分 | 前期課程 | |
| 授業形態 | セミナー | |
| 対象履修コース | 電気工学分野 | エネルギー理工学専攻 |
| 開講時期1 | 1年後期 | 2年後期 |
| 開講時期2 | 2年後期 | |
| 教員 | 久保 伸教授 大野 哲晴教授 渡邊 清政教授 中村 浩章教授 井戸 毅准教授 梶田 信准教授 兼原 竜弥助教 | |
| <p>●本講座の目的およびねらい 核融合周辺プラズマ・ダイバータ領域の課題、核融合プラズマ中の熱・粒子輸送、磁化プラズマの安定性、プラズマ加熱の基礎に関するテキストや論文を選び、この分野の基礎理工学を深く理解する。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 電磁気学、プラズマ工学、力学、関連基礎物理</p> <p>●授業内容 1. プラズマと中性ガス相互作用; 2. プラズマ輸送理論; 3. 核融合プラズマの閉じ込め; 4. 波と粒子のエネルギー緩和; 5. 波と粒子の運動量緩和と電流駆動</p> <p>●教科書 ●参考書</p> <p>●評価方法と基準 セミナーにおける口頭発表とそれに対する質疑応答により、目標達成度を評価する。総合点60点以上を合格とし、60点以上69点までをC、70点以上79点までをB、80点以上89点までをA、90点以上をSとする。但し、平成22年度以前の入・進学者については、80点以上をAとする。</p> <p>●履修条件・注意事項 ●質問への対応</p> | | |

| エネルギー環境工学セミナー1A (2.0単位) | | |
|---|-------------------------|------------|
| 科目区分 | 主専攻科目 | 主分野科目 |
| 課程区分 | 前期課程 | |
| 授業形態 | セミナー | |
| 対象履修コース | 量子エネルギー工学分野 | エネルギー理工学専攻 |
| 開講時期1 | 1年前期 | 1年前期 |
| 教員 | 山澤 弘実教授 森泉 純准教授 平尾 茂一助教 | |
| <p>●本講座の目的およびねらい 放射線防護、環境放射能・放射線及びエネルギー利用に伴う地球環境問題に関連する文献を輪読し、研究に対する取り組み方、進め方、まとめ方、研究方法などについて修得する。達成目標 1. 環境放射能・放射線、放射線防護、物質環境動態の何れかに関する基礎的な研究方法を理解し、教員の指導下で基礎知識を応用した研究を実施できる。2. 地球環境問題、エネルギー環境安全の基礎となる学問を理解し、典型的な事例について論理的に説明できる。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 保健物理学、放射線計測学、移動現象論</p> <p>●授業内容 1. 放射線防護 2. 環境放射能・放射線 3. エネルギー使用と環境安全 4. 物質循環と環境問題</p> <p>●教科書 輪読する教科書については、年度初めに適宜選定する。論文については、セミナーの進行に合わせて論文を適宜選定する。</p> <p>●参考書 なし</p> <p>●評価方法と基準 セミナーにおける口頭発表とそれに対する質疑応答により、目標達成度を評価する。100点満点で60点以上を合格とする。 <平成23年度以降入・進学者> 100~90点: S, 89~80点: A, 79~70点: B, 69~60点: C, 59点以下: F</p> <p>●履修条件・注意事項 ●質問への対応 内線 3781 yamazawa@nucl.nagoya-u.ac.jp</p> | | |

| エネルギー環境工学セミナー1B (2.0単位) | | |
|--|-------------------------|------------|
| 科目区分 | 主専攻科目 | 主分野科目 |
| 課程区分 | 前期課程 | |
| 授業形態 | セミナー | |
| 対象履修コース | 量子エネルギー工学分野 | エネルギー理工学専攻 |
| 開講時期1 | 1年後期 | 1年後期 |
| 教員 | 山澤 弘実教授 森泉 純准教授 平尾 茂一助教 | |
| <p>●本講座の目的およびねらい 放射線防護、環境放射能・放射線及びエネルギー利用に伴う地球環境問題に関連する文献を輪読し、研究に対する取り組み方、進め方、まとめ方、研究方法などについて修得する。達成目標 1. 環境放射能・放射線、放射線防護、物質環境動態の何れかに関する基礎的な研究方法を理解し、教員の指導下で基礎知識を応用した研究を実施できる。2. 地球環境問題、エネルギー環境安全の基礎となる学問を理解し、典型的な事例について論理的に説明できる。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 保健物理学、放射線計測学、移動現象論</p> <p>●授業内容 1. 放射線防護; 2. 環境放射能・放射線; 3. エネルギー使用と環境安全; 4. 物質循環と環境問題</p> <p>●教科書 輪読する教科書については、年度初めに適宜選定する。論文については、セミナーの進行に合わせて論文を適宜選定する。</p> <p>●参考書 無し</p> <p>●評価方法と基準 セミナーにおける口頭発表とそれに対する質疑応答により、目標達成度を評価する。100点満点で60点以上を合格とする。 <平成23年度以降入・進学者> 100~90点: S, 89~80点: A, 79~70点: B, 69~60点: C, 59点以下: F</p> <p>●履修条件・注意事項 ●質問への対応 内線 3781 yamazawa@nucl.nagoya-u.ac.jp</p> | | |

エネルギー環境工学セミナー1C (2.0単位)

科目区分 主専攻科目 主分野科目
課程区分 前期課程
授業形態 セミナー
対象履修コース 量子エネルギー工学分野 エネルギー理工学専攻
開講時期1 2年前期 2年前期
教員 山澤 弘実 教授 森泉 純准教授 平尾 茂一 助教

- 本講座の目的およびねらい
放射線防護、環境放射能、放射線及びエネルギー利用に伴う地球環境問題に関連する文献を精読し、研究に対する取り組み方、進め方、まとめ方、研究方法などについて修得する。
●バックグラウンドとなる科目
保健物理学、放射線計測学、移動現象論
●授業内容
1. 放射線防護 2. 環境放射能・放射線 \ 3. エネルギー使用と環境安全 \ 4. 物質循環と環境問題
●教科書
輪読する教科書については、年度初めに適宜選定する。論文については、セミナーの進行に合わせて論文を適宜選定する。
●参考書
なし
●評価方法と基準
セミナーにおける口頭発表とそれに対する質疑応答により、目標達成度を評価する。100点満点で60点以上を合格とする。
●履修条件・注意事項
●質問への対応

エネルギー環境工学セミナー1D (2.0単位)

科目区分 主専攻科目 主分野科目
課程区分 前期課程
授業形態 セミナー
対象履修コース 量子エネルギー工学分野 エネルギー理工学専攻
開講時期1 2年後期 2年後期
教員 山澤 弘実 教授 森泉 純准教授 平尾 茂一 助教

- 本講座の目的およびねらい
放射線防護、環境放射能、放射線及びエネルギー利用に伴う地球環境問題に関連する文献を精読し、研究に対する取り組み方、進め方、まとめ方、研究方法などについて修得する。
●バックグラウンドとなる科目
保健物理学、放射線計測学、移動現象論
●授業内容
1. 放射線防護 2. 環境放射能・放射線 \ 3. エネルギー使用と環境安全 \ 4. 物質循環と環境問題
●教科書
輪読する教科書については、年度初めに適宜選定する。論文については、セミナーの進行に合わせて論文を適宜選定する。
●参考書
なし
●評価方法と基準
セミナーにおける口頭発表とそれに対する質疑応答により、目標達成度を評価する。100点満点で60点以上を合格とする。
●履修条件・注意事項
●質問への対応
セミナー時に対応する。

国際協働プロジェクトセミナーI (2.0単位)

科目区分 主専攻科目 主分野科目
課程区分 前期課程
授業形態 セミナー
対象履修コース 応用化学工学分野 分子化学工学分野 生物機能工学分野 材料工学分野 応用物理学分野
量子エネルギー工学分野 電気工学分野 電子工学分野 情報・通信工学分野 機械科学分野
機械情報システム工学分野 電子機械工学分野 航空宇宙工学分野 社会基盤工学分野
結晶材料工学専攻 エネルギー理工学専攻 量子工学専攻 マイクロ・ナノシステム工学専攻 物質制御工学専攻 計算理工学専攻
開講時期1 1年前後期 1年前後期 1年前後期 1年前後期 1年前後期
1年前後期 1年前後期 1年前後期 1年前後期 1年前後期
1年前後期 1年前後期 1年前後期 1年前後期
開講時期2 2年前後期 2年前後期 2年前後期 2年前後期 2年前後期
2年前後期 2年前後期 2年前後期 2年前後期 2年前後期
2年前後期 2年前後期 2年前後期 2年前後期
教員 各教員(世界展開力)

- 本講座の目的およびねらい
総合力・国際力を持って国際舞台で活躍できる人材を育成するために、海外の研究開発を実体験する。工学に関する共同研究を通して基礎知識、研究能力、コミュニケーション能力の向上を目指す。
●バックグラウンドとなる科目
工学全般、英語、技術英語
●授業内容
海外の研究機関等での研究開発現場を体験する。指導教員からの定期的な指導を受け、レポート提出などを行う。帰国後、海外の担当教員から研究活動の内容及び指導成果の報告を受け、総合評価を受ける。
●教科書
研究内容に応じ指導教員から指定される。
●参考書
●評価方法と基準
指導教員を含む担当教員グループの合議により、国際協働研究における基礎知識・研究能力・コミュニケーション能力などについて、プログラムが定める評価基準に従って総合評価する。合格と評価された場合、中期プログラムで、6カ月程度海外の研究機関等で研究に従事した場合、2単位長期プログラムで、12カ月程度海外の研究機関等で研究に従事した場合、4単位が認められる。
●履修条件・注意事項
プログラムに参加する学生のみを対象とする。
●質問への対応

国際協働プロジェクトセミナーI (4.0単位)

科目区分 主専攻科目 主分野科目
課程区分 前期課程
授業形態 セミナー
対象履修コース 応用化学工学分野 分子化学工学分野 生物機能工学分野 材料工学分野 応用物理学分野
量子エネルギー工学分野 電気工学分野 電子工学分野 情報・通信工学分野 機械科学分野
機械情報システム工学分野 電子機械工学分野 航空宇宙工学分野 社会基盤工学分野
結晶材料工学専攻 エネルギー理工学専攻 量子工学専攻 マイクロ・ナノシステム工学専攻 物質制御工学専攻 計算理工学専攻
開講時期1 1年前後期 1年前後期 1年前後期 1年前後期 1年前後期 1年前後期
1年前後期 1年前後期 1年前後期 1年前後期 1年前後期 1年前後期
1年前後期 1年前後期 1年前後期 1年前後期
開講時期2 2年前後期 2年前後期 2年前後期 2年前後期 2年前後期 2年前後期
2年前後期 2年前後期 2年前後期 2年前後期 2年前後期 2年前後期
2年前後期 2年前後期 2年前後期 2年前後期
教員 各教員(世界展開力)

- 本講座の目的およびねらい
総合力・国際力を持って国際舞台で活躍できる人材を育成するために、海外の研究開発を実体験する。工学に関する共同研究を通して基礎知識、研究能力、コミュニケーション能力の向上を目指す。
●バックグラウンドとなる科目
工学全般、英語、技術英語
●授業内容
海外の研究機関等での研究開発現場を体験する。指導教員からの定期的な指導を受け、レポート提出などを行う。帰国後、海外の担当教員から研究活動の内容及び指導成果の報告を受け、総合評価を受ける。
●教科書
研究内容に応じ指導教員から指定される。
●参考書
●評価方法と基準
指導教員を含む担当教員グループの合議により、国際協働研究における基礎知識・研究能力・コミュニケーション能力などについて、プログラムが定める評価基準に従って総合評価する。合格と評価された場合、中期プログラムで、6カ月程度海外の研究機関等で研究に従事した場合、2単位長期プログラムで、12カ月程度海外の研究機関等で研究に従事した場合、4単位が認められる。
●履修条件・注意事項
プログラム参加者のみ
●質問への対応

| 超伝導工学基礎論 (2.0単位) | | |
|------------------|---------|------------|
| 科目区分 | 主専攻科目 | 主分野科目 |
| 課程区分 | 前期課程 | |
| 授業形態 | 講義 | |
| 対象履修コース | 電気工学分野 | エネルギー理工学専攻 |
| 開講時期 1 | 1年後期 | 1年後期 |
| 開講時期 2 | 2年後期 | 2年後期 |
| 教員 | 吉田 隆 教授 | 一野 祐亮 准教授 |

●本講座の目的およびねらい
低温技術、超伝導現象の基礎的理論、超伝導材料とその特性、超伝導とエネルギー応用など、超伝導の基礎について学習し、理解する。

●バックグラウンドとなる科目
電気磁気学、物理学基礎、固体電子工学

●授業内容
1. 低温技術 2. 超伝導現象の基礎 \ 3. 超伝導材料の種類とその特性 \ 4. 超伝導応用

●教科書
講義の進行に合わせて適宜紹介する。

●参考書
講義の進行に合わせて適宜紹介する。

●評価方法と基準
レポート及び期末試験。100点満点で60点以上を合格とする。

●履修条件・注意事項

●質問への対応

| エネルギー熱流体工学特論 (2.0単位) | | |
|----------------------|-------------|------------|
| 科目区分 | 主専攻科目 | 主分野科目 |
| 課程区分 | 前期課程 | |
| 授業形態 | 講義 | |
| 対象履修コース | 量子エネルギー工学分野 | エネルギー理工学専攻 |
| 開講時期 1 | 1年後期 | 1年後期 |
| 開講時期 2 | 2年後期 | 2年後期 |
| 教員 | 辻 義之 教授 | 伊藤 高啓 准教授 |

●本講座の目的およびねらい
エネルギーを生成したり、輸送する過程について広く考える。特に、熱・流体運動の基礎的な知識や技術が、省エネルギーという観点からどのように応用され、実用化されているのかについて考える。キーワードは「流体力学」と「エネルギー」。

1. 工業製品や実用化に見る具体例
2. 省エネ対策、エネルギー政策
3. 化石エネルギー
4. 新エネルギー（風車・燃料電池）
5. プラズマ、原子炉
6. 廃棄物処理
7. 地球温暖化対策と役割
8. 大気気候変動モデル

●バックグラウンドとなる科目
流体力学、熱力学、統計力学、移動現象論、数値解析

●授業内容
熱流体力学の知識が応用される事例について、基礎的な観点からの理解を深める

○流体の基礎方程式
○流体乱流の普遍法則
○流体乱流の統計的取り扱い
について学び、下記の項目についての応用例を考察する。

1. 工業製品や実用化に見る具体例
2. 省エネ対策、エネルギー政策
3. 化石エネルギー
4. 新エネルギー（風車・燃料電池）
5. プラズマ、原子炉
6. 廃棄物処理
7. 地球温暖化対策と役割
8. 大気気候変動モデル

●教科書
なし

●参考書
講義の際に指定する

●評価方法と基準
試験及びレポート

●履修条件・注意事項

●質問への対応

| 熱エネルギー変換工学基礎論 (2.0単位) | | |
|-----------------------|----------|------------|
| 科目区分 | 主専攻科目 | 主分野科目 |
| 課程区分 | 前期課程 | |
| 授業形態 | 講義 | |
| 対象履修コース | 分子化学工学分野 | エネルギー理工学専攻 |
| 開講時期 1 | 1年前期 | 1年前期 |
| 開講時期 2 | 2年前期 | 2年前期 |
| 教員 | 松田 仁樹 教授 | 出口 清一 講師 |

●本講座の目的およびねらい
・講義の概要：
熱エネルギーの発生、利用状況、熱エネルギーの変換技術、貯蔵技術、輸送技術、断熱技術などの現状と動向を習得する。これらの基礎的な熱エネルギー利用技術を踏まえ、環境適合型熱エネルギーシステム、高効率熱エネルギー変換システムについて学ぶ。

・達成目標：
1. 熱利用プロセスの現状と課題のポイントを理解する。
2. 熱エネルギー変換プロセスと問題点を習得する。
3. 次世代の熱エネルギー利用システムの動向、解決すべき問題点などを理解する。

●バックグラウンドとなる科目
熱移動
熱エネルギー工学

●授業内容
1. イントロダクション
2. 熱エネルギーの発生、利用状況
3. 熱エネルギー利用プロセス
4. 熱エネルギーの変換技術
5. 熱エネルギーの貯蔵技術
6. 熱エネルギーの輸送技術
7. 断熱技術
8. 低環境負荷エネルギー利用システム
9. 今後の熱エネルギー有効技術の展開

●教科書
なし
適宜、資料を配布する

●参考書
エネルギー白書(経済産業省編)など

●評価方法と基準
出席(40%)、レポート(30%)、テスト(30%)で評価し、100点満点で60点以上を合格とする
S: 90-100点, A: 80-89点, B: 70-79点, C: 60-69点, F: 59点以下とする。

●履修条件・注意事項

●質問への対応
適宜、質問・コメント等を授業時間内および居室にて受け付ける

| エネルギー環境安全工学特論 (2.0単位) | | |
|-----------------------|-------------|------------|
| 科目区分 | 主専攻科目 | 主分野科目 |
| 課程区分 | 前期課程 | |
| 授業形態 | 講義 | |
| 対象履修コース | 量子エネルギー工学分野 | エネルギー理工学専攻 |
| 開講時期 1 | 1年後期 | 1年後期 |
| 開講時期 2 | 2年後期 | 2年後期 |
| 教員 | 山澤 弘実 教授 | 森泉 純 准教授 |

●本講座の目的およびねらい
原子力を含めたエネルギー利用に伴う地球規模から地域規模での環境問題、環境放射能・放射線の特性、ならびに放射線の健康影響に関する安全評価についてその基礎と応用を講述し、エネルギー利用と環境・人間との関わりを理解するとともに問題解決のための総合力を養う。:達成目標: 1. エネルギー利用に伴う環境問題を理解し、説明できる。: 2. 環境放射能・放射線の特性を理解し、被曝評価できる。: 3. 原子力災害に対する基本を説明できる。

●バックグラウンドとなる科目
放射線計測学、保健物理学、移動現象論

●授業内容
1. エネルギー利用と地球環境問題: 2. 環境放射能・放射線: 3. 放射線被曝評価の基礎: 4. 原子力事故と原子力防災の考え方

●教科書
テキストは特にならない。プリントを毎週配布する。プリントの復習を十分に行うこと。

●参考書
なし

●評価方法と基準
達成目標に対する評価の重みは同等である。:課題レポートで評価し、100点満点で60点以上を合格とする。
<平成23年度以降入学者>
100~90点: S, 89~80点: A, 79~70点: B, 69~60点: C, 59点以下: F
<平成22年度以前入学者>
100~80点: A, 79~70点: B, 69~60点: C, 59点以下: D

●履修条件・注意事項

●質問への対応
講義終了時に対応する。:担当教員連絡先:内線 3781 yamazawa@nucl.nagoya-u.ac.jp

| プラズマ物性工学 (2.0単位) | | |
|---|----------|---------------------|
| 科目区分 | 主専攻科目 | 主分野科目 |
| 課程区分 | 前期課程 | |
| 授業形態 | 講義 | |
| 対象履修コース | 電気工学分野 | エネルギー理工学専攻 |
| 開講時期1 | 1年前期 | 1年前期 |
| 開講時期2 | 2年前期 | 2年前期 |
| 教員 | 大野 哲靖 教授 | 庄司 多津男 准教授 梶田 信 准教授 |
| <p>●本講座の目的およびねらい プラズマの電磁流体的および運動論的性質の入門から出発し、粒子的、集団的そして統計力学的プラズマ物性の基礎について講述する。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 電磁気学、力学、統計力学</p> <p>●授業内容 1. 気体論の基礎 \ 2. 荷電粒子の基礎過程 \ 3. 荷電粒子の輸送過程 \ 4. プラズマ生成の基礎過程 \ 5. 放電プロセス \ 6. 天体のプラズマ \ 7. プラズマ応用</p> <p>●教科書 特になし</p> <p>●参考書 プラズマ物理学の基礎 (V.E.ゴラント著、現代工学社) プラズマ物理入門 (F. F. チェン 著 内田 岱二郎 訳、丸善) プラズマ理工学入門 (高村秀一著、森北出版)</p> <p>●評価方法と基準 レポートにより、目標達成度を評価する。総合点60点以上を合格とし、60点以上69点までC、70点以上79点までをB、80点以上89点までをA、90点以上をSとする。但し、平成22年度以前の入・進学者については、80点以上をAとする</p> <p>●履修条件・注意事項</p> <p>●質問への対応</p> | | |

| 高エネルギー電子分光特論 (2.0単位) | | |
|--|-------------|-------------------|
| 科目区分 | 主専攻科目 | 主分野科目 |
| 課程区分 | 前期課程 | |
| 授業形態 | 講義 | |
| 対象履修コース | 量子エネルギー工学分野 | エネルギー理工学専攻 量子工学専攻 |
| 開講時期1 | 2年後期 | 2年後期 |
| 開講時期2 | | 1年後期 |
| 教員 | 武藤 俊介 教授 | 巽 一敏 准教授 |
| <p>●本講座の目的およびねらい 高エネルギー電子を用いる電子分光法の基礎と応用を学ぶ。特に最近の走査型透過電子顕微鏡 (STEM) を用いたナノ分光の測定技術、可視化についても言及する。またスペクトルの解釈に必要な第一原理理論計算についても触れる。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 学部におけるすべての数学及び物理系科目</p> <p>●授業内容 1. 電子と固体の相互作用: 2. 様々な電子分光法: 3. フェルミの黄金律: 4. 電子エネルギー損失分光法の実験: 5. X線蛍光分析法: 6. 統計的データ処理法の基礎とマッピング技術</p> <p>●教科書 R.F. Egerton, Electron Energy-Loss Spectroscopy in the Electron Microscope, Plenum</p> <p>●参考書 J.M. Cowley, Diffraction Physics, North-Holland</p> <p>●評価方法と基準 出席とレポートにより、目標達成度を評価する。100点満点で60点以上を合格とし、60点以上69点までをC、70点以上79点までをB、80点以上89点までをA、90点以上をSとする。</p> <p>●履修条件・注意事項</p> <p>●質問への対応</p> | | |

| 核融合プラズマ波動・輸送基礎論 (2.0単位) | | |
|--|------------|----------|
| 科目区分 | 主専攻科目 | 主分野科目 |
| 課程区分 | 前期課程 | |
| 授業形態 | 講義 | |
| 対象履修コース | エネルギー理工学専攻 | |
| 開講時期1 | 1年前期 | |
| 開講時期2 | 2年前期 | |
| 教員 | 久保 伸 教授 | 井戸 毅 准教授 |
| <p>●本講座の目的およびねらい 磁場中に閉じ込められたプラズマの波動と輸送の基礎過程、それらの応用としての磁場核融合プラズマの加熱・計測と閉じ込めを講述する。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 電磁気学、力学</p> <p>●授業内容 1. 磁場中のプラズマ波 2. プラズマ中の輸送過程 3. 磁場閉じ込め核融合プラズマ 4. プラズマ加熱・計測 5. 核融合プラズマの閉じ込め</p> <p>●教科書 特になし</p> <p>●参考書 1. Theory of plasma waves (T.H.Stix) 2. Introduction to plasma physics (R.J. Goldston and P.H. Rutherford) 3. Tokamaks (J. Wesson, Oxford publishing) 4. プラズマ物理・核融合 (宮本 健郎, 東京大学出版会)</p> <p>●評価方法と基準 レポートにより、理解度を評価する。総合点60点以上を合格とし、60点以上69点までC、70点以上79点までをB、80点以上89点までをA、90点以上をSとする。但し、平成22年度以前の入・進学者については、80点以上をAとする。</p> <p>●履修条件・注意事項</p> <p>●質問への対応 講義時間外は、担当教員にメールで問い合わせること。 久保 (kubo@LHD.nifs.ac.jp) 井戸 (ido@LHD.nifs.ac.jp)</p> | | |

| 熱流体物理特論 (2.0単位) | | |
|---|------------|-------|
| 科目区分 | 主専攻科目 | 主分野科目 |
| 課程区分 | 前期課程 | |
| 授業形態 | 講義 | |
| 対象履修コース | エネルギー理工学専攻 | |
| 開講時期1 | 2年前期 | |
| 開講時期2 | | |
| 教員 | 中村 浩章 教授 | |
| <p>●本講座の目的およびねらい 熱電半導体中のキャリアの輸送現象を理解し、非平衡物理学の基礎およびその応用としてのエネルギー変換に関するメカニズムを理解する</p> <p>達成目標 1. 非平衡熱力学の理解 2. ボルツマン方程式を用いた計算の把握 3. 固体物理の基礎的理解</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 力学、熱力学、統計力学、量子力学、物性物理学</p> <p>●授業内容 非平衡定常系の輸送現象を、現象論的な視点から説明する。次に、固体中のキャリアの輸送を、衝突緩和近似を用いてボルツマン方程式を解析的に解き、分子運動論的な視点を理解してもらう。さらに、量子効果を組み込んだナノデバイス中でのキャリアの運動を説明する。講義を通じて、実際に工学的に使われている熱電素子の性能が、基礎物理理論によって定量的に評価できることを把握する。これにより、基礎理論を用いた工学設計への応用する工学設計の総合力を培ってもらえるようにする。</p> <p>●教科書 なし</p> <p>●参考書 キャレン「熱力学および統計物理入門(上、下)」吉岡書店(1998)</p> <p>●評価方法と基準 講義の区切りで、課題(4問の予定)を出す。そのレポートを、最終講義時に提出してもらう。各々25%で目標達成度を評価する。総合点60点以上を合格とし、60点以上69点までをC、70点以上79点までをB、80点以上89点までをA、90点以上をSとする。但し、平成22年度以前の入・進学者については、80点以上をAとする。</p> <p>●履修条件・注意事項</p> <p>●質問への対応 講義時間外は、担当教員にメールで問い合わせること。 中村浩章 (0572-58-2356, hnakanura@nifs.ac.jp)</p> | | |

| 材料システム工学特論 (2.0単位) | | |
|---|----------|------------|
| 科目区分 | 主専攻科目 | 主分野科目 |
| 課程区分 | 前期課程 | |
| 授業形態 | 講義 | |
| 対象履修コース | 分子化学工学分野 | エネルギー理工学専攻 |
| 開講時期 1 | 1 年前期 | 2 年前期 |
| 教員 | 田邊 靖博 教授 | |
| <p>●本講座の目的およびねらい 炭素材料（黒鉛材料）を例として、製造プロセスならびに応用展開に関わるトピックスについて学ぶ</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 材料工学</p> <p>●授業内容 1. 物質・材料： 2. 炭素材料（黒鉛材料）の多様性： 3. 特性と応用展開： 4. 製造プロセスの最近の話題</p> <p>●教科書 配付資料</p> <p>●参考書 カーボン 古くて新しい材料、稲垣道夫、森北出版（2011）</p> <p>●評価方法と基準 レポートにより、目標達成度を評価する。100点満点で60点以上を合格とし、60点以上69点までをC、70点以上79点までをB、80点以上89点までをA、90点以上をSとする。</p> <p>●履修条件・注意事項</p> <p>●質問への対応</p> | | |

| エネルギー科学特論 (2.0単位) | | |
|--|-------------|------------|
| 科目区分 | 主専攻科目 | 主分野科目 |
| 課程区分 | 前期課程 | |
| 授業形態 | 講義 | |
| 対象履修コース | 量子エネルギー工学分野 | エネルギー理工学専攻 |
| 開講時期 1 | 2 年前期 | 2 年前期 |
| 教員 | 藤田 隆明 教授 | |
| <p>●本講座の目的およびねらい エネルギー問題の基礎を概観し、各種エネルギーの現状と将来を理解する。特に、各種エネルギー形態の数値的な記述を理解する。エネルギー問題を含む幅広い視点から自分の専門分野の研究を見つめなおす契機とする。</p> <p>達成目標 1. エネルギー科学の諸課題を理解し、説明できる。 2. 各種エネルギー形態の記述を理解し、説明できる。 3. 未来エネルギーの展望を理解し、説明できる</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 力学、電磁気学、熱力学、流体力学、プラズマ理工学</p> <p>●授業内容 1. エネルギーの基礎 2. エネルギーと環境 3. エネルギー資源 4. 各種エネルギー形態とエネルギー変換 5. エネルギーの輸送と貯蔵 6. 力学エネルギー 7. 熱エネルギー 8. 電磁エネルギー 9. 光エネルギー 10. 化学エネルギー 11. 核エネルギー 12. エネルギー有効利用 13. 未来エネルギー</p> <p>●教科書 教科書は特に指定しない。授業中に補足資料を配付する。また、毎回授業の最後にレポート課題を提示するので、次回の授業時までに提出し、理解を深めること。</p> <p>●参考書 エネルギーと環境の科学 山崎耕造著 共立出版 トコトンやさしいエネルギーの本 山崎耕造著 日刊工業新聞社 エネルギー工学入門 宮本健郎 培風館 エネルギー・資源ハンドブック エネルギー・資源学会編 オーム社</p> <p>●評価方法と基準 毎回の小レポートで評価する。レポートを半数以上提出しなかった者は「欠席」とする。</p> <p>〈平成23年度以降入学者〉 100～90点：S、89～80点：A、79～70点：B、69～60点：C、59点以下：F 〈平成22年度以前入学者〉 100～80点：優、79～70点：良、69～60点：可、59点以下：不可</p> <p>●履修条件・注意事項</p> <p>●質問への対応</p> | | |

| エネルギー科学特論 (2.0単位) | |
|---|------|
| 担当教員 | 藤田隆明 |
| TEL: 052-789-4593 | |
| E-mail: fujita@ees.nagoya-u.ac.jp | |
| http://www.ees.nagoya-u.ac.jp/web_da16/ | |

| 核融合システム工学 (2.0単位) | | |
|--|--------------------|------------|
| 科目区分 | 主専攻科目 | 主分野科目 |
| 課程区分 | 前期課程 | |
| 授業形態 | 講義 | |
| 対象履修コース | 量子エネルギー工学分野 | エネルギー理工学専攻 |
| 開講時期 1 | 2 年後期 | 2 年後期 |
| 教員 | 藤田 隆明 教授 杉山 貴彦 准教授 | |
| <p>●本講座の目的およびねらい エネルギー問題の中での核融合炉システム開発の意義を理解し、炉心プラズマ、ブランケット、超伝導コイル、炉材料等の核融合炉コンポーネントの概要について学ぶ。これらを通して、現状と問題点、将来の展望について考察する。</p> <p>達成目標 1. 核融合炉の原理と特徴を理解し、説明できる。 2. 核融合炉心プラズマを理解し、説明できる。 3. 核融合炉の各機器を理解し、説明できる。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 力学、電磁気学、プラズマ理工学、原子燃料サイクル工学</p> <p>●授業内容 1. 序論 2. エネルギーと環境 3. 核融合炉の原理 4. 炉心プラズマ 5. プラズマの加熱 6. プラズマの制御・制御 7. プラズマ・壁相互作用 8. ブランケット工学 9. 超伝導コイル工学 10. 炉材料工学・中性子工学 11. 核融合炉燃料サイクル 12. 安全工学 13. 核融合炉の設計 14. 炉開発計画 15. 将来展望</p> <p>●教科書 教科書は特に指定しない。授業中に補足資料を配付する。また、毎回授業の最後に簡単な小レポート課題を提示するので、理解を深めること。</p> <p>●参考書 関昌弘編 核融合炉工学概論 日刊工業新聞社 2001年 プラズマ・核融合学会誌 第87巻増刊 テキスト 核融合炉 2011年 T.Dolan, Fusion Research, Pergamon Press 2000</p> <p>●評価方法と基準 小レポート（40%）、期末レポート（60%）で評価する。100点満点で60点以上を合格とする。</p> <p>●履修条件・注意事項 特になし。ただし、毎回の講義後、講義資料をもとに、十分に復習することが望まれる。</p> <p>●質問への対応 担当教員： 藤田隆明、内線4593、fujita@ees.nagoya-u.ac.jp 杉山貴彦、内線3786、t-sugiyama@nucl.nagoya-u.ac.jp</p> | | |

| エネルギー環境工学特論 (2.0単位) | | |
|--|----------|------------|
| 科目区分 | 主専攻科目 | 主分野科目 |
| 課程区分 | 前期課程 | |
| 授業形態 | 講義 | |
| 対象履修コース | 電気工学分野 | エネルギー理工学専攻 |
| 開講時期1 | 1年後期 | 1年後期 |
| 開講時期2 | 2年後期 | 2年後期 |
| 教員 | 鈴置 保雄 教授 | 加藤 丈佳 准教授 |
| <p>●本講座の目的およびねらい エネルギー環境問題を踏まえて、高効率・環境調和型のエネルギーシステム実現のための技術的・社会的アプローチを概説し、これらを検討するためのエネルギーシステムモデルの構築・解析方法を講述する。これらを通じて、エネルギー環境問題を考える基礎力 応用力 創造力・総合力・備前力を身につける。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 電力機器工学、電気エネルギー伝送工学、電気エネルギー変換工学、高電圧工学、電気・電子材料工学</p> <p>●授業内容 1. エネルギーと環境問題 2. エネルギー需給の経済学 3. エネルギーシステムのモデル化 4. 日本のCO2排出削減対策</p> <p>●教科書 補足資料を配布</p> <p>●参考書 特に指定しないが、エネルギーシステムやエネルギー機器に関して様々な参考書が出版されている。</p> <p>●評価方法と基準 レポートあるいは筆記試験により判定し、60点以上を合格とする。</p> <p>●履修条件・注意事項</p> <p>●質問への対応</p> | | |

| エネルギーシステム工学特論 (2.0単位) | | |
|--|----------|------------|
| 科目区分 | 主専攻科目 | 主分野科目 |
| 課程区分 | 前期課程 | |
| 授業形態 | 講義 | |
| 対象履修コース | 電気工学分野 | エネルギー理工学専攻 |
| 開講時期1 | 1年前期 | 1年前期 |
| 開講時期2 | 2年前期 | 2年前期 |
| 教員 | 松村 年郎 教授 | 横水 康伸 准教授 |
| <p>●本講座の目的およびねらい 目的とねらい 電力システムの基礎理論および物理現象を学習し、電気エネルギーの役割を理解する。それとともに、エネルギー有効利用のための基礎概念を学習し、エネルギー環境問題への対応や省エネルギー技術の現状と課題を理解できる基礎学力および応用力を身につける。 \ 達成目標 \ 1. 電力システムにおける制御技術を理解し、説明できる。 \ 2. エネルギーの概念を理解し、説明できる。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 電気エネルギー基礎論、電気エネルギー伝送工学、線形回路論、電磁気学</p> <p>●授業内容 1. 日本の電力システム 2. 電力システムの構成 \ 3. 電力システムの制御 \ 4. 電力システムの安定度・信頼度 \ 5. エネルギーの基本概念 \ 6. 電気エネルギーの蓄積と伝送の本質</p> <p>●教科書 プリントを適宜配布する。</p> <p>●参考書</p> <p>●評価方法と基準 適宜レポート提出あるいは演習問題への解答を求める。各回のレポートを100点満点で評価し、全レポートの平均点60点以上を合格とする。</p> <p>●履修条件・注意事項</p> <p>●質問への対応</p> | | |

| 超伝導応用工学特論 (2.0単位) | | |
|---|----------|------------|
| 科目区分 | 主専攻科目 | 主分野科目 |
| 課程区分 | 前期課程 | |
| 授業形態 | 講義 | |
| 対象履修コース | 電気工学分野 | エネルギー理工学専攻 |
| 開講時期1 | 1年前期 | 1年前期 |
| 開講時期2 | 2年前期 | 2年前期 |
| 教員 | 早川 直樹 教授 | 小島 寛樹 准教授 |
| <p>●本講座の目的およびねらい 超伝導の基礎とその電力・エネルギー分野への応用について理解する。</p> <p>達成目標: 1. 超伝導技術の電力・エネルギー分野への応用原理・事例の理解 2. 各種超伝導応用電力機器・システムの開発動向の理解 3. 超伝導技術に関する今後の技術開発課題の理解</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 電力機器工学</p> <p>●授業内容 1. 超伝導の物理概論 2. 超伝導材料 3. 極低温技術、材料 4. 超伝導エネルギー機器 5. 超伝導応用</p> <p>●教科書 教科書は特に指定しないが、講義資料を適宜配布する。</p> <p>●参考書 なし</p> <p>●評価方法と基準 レポートまたは口頭発表により、目標達成度を評価する。100点満点で、総合点60点以上を合格とし、60点以上69点までをC、70点以上79点までをB、80点以上89点までをA、90点以上をSとする。但し、平成22年以前の入・進学者については、80点以上をAとする。</p> <p>●履修条件・注意事項</p> <p>●質問への対応 担当教員連絡先: 内線3325 nhayakaw@nuee.nagoya-u.ac.jp, 内線5874 kojina@nuee.nagoya-u.ac.jp</p> | | |

| プロセスプラズマ工学特論 (2.0単位) | | |
|---|----------|------------|
| 科目区分 | 主専攻科目 | 主分野科目 |
| 課程区分 | 前期課程 | |
| 授業形態 | 講義 | |
| 対象履修コース | 電子工学分野 | エネルギー理工学専攻 |
| 開講時期1 | 2年前期 | 1年前期 |
| 教員 | 豊田 浩孝 教授 | |
| <p>●本講座の目的およびねらい 学部で学習したプラズマ工学を基礎として、プラズマの振舞、プラズマと固体との相互作用およびプラズマ応用について講述する。:達成目標:1 プラズマの基礎方程式を理解し、説明できる。:2 プラズマの輸送および拡散を理解し、説明できる。:3 種々のプラズマ源の原理およびプラズマ加熱過程を理解し、説明できる。:4 種々のプラズマ応用を理解し、説明できる。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 プラズマ工学、電磁気学</p> <p>●授業内容 1. 粒子間衝突: 2. プラズマの基礎方程式: 3. プラズマ動態: 4. 拡散と輸送: 5. シース: 6. プラズマ源1 (容量結合型プラズマ): 7. プラズマ源2 (誘導結合型プラズマ): 8. プラズマ源3 (電磁波励起によるプラズマ生成): 9. プラズマ応用 1 (プラズマ気相成長): 10. プラズマ応用 2 (プラズマエッチング)</p> <p>●教科書 菅井秀郎編著「プラズマエレクトロニクス」:(オーム社)</p> <p>●参考書 M. A. Lieberman and A. J. Lichtenberg, Principles of Plasma Discharges and Materials Processing (John Wiley & Sons, Inc., 1994): F. F. Chen and J. P. Chang, Lecture Notes on Principles of Plasma Processing (Kluwer Academic/ Plenum Publishers, 2003)</p> <p>●評価方法と基準 達成目標に対する評価の重みは同等である。:レポートあるいは試験により評価し、100点満点で60点以上を合格とする。</p> <p>●履修条件・注意事項</p> <p>●質問への対応 担当教員連絡先: 内線 4 6 9 8 toyoda@nuee.nagoya-u.ac.jp</p> | | |

| 反応プロセス工学特論 (2.0単位) | | |
|--|----------|---------------------|
| 科目区分 | 主専攻科目 | 主分野科目 |
| 課程区分 | 前期課程 | |
| 授業形態 | 講義 | |
| 対象履修コース | 分子化学工学分野 | 生物機能工学分野 エネルギー理工学専攻 |
| 開講時期1 | 2年前期 | 2年前期 1年前期 |
| 教員 | 田川 智彦 教授 | 小林 敬幸 准教授 |
| <p>●本講座の目的およびねらい 反応工学の進む今後の道のりを考えるために、プロセスからの要求がどのように変化し、それを支える反応工学がどのように変遷しているかを検証し、次世代反応工学のあるべきすがたと方向性を考える。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 化学反応:反応操作</p> <p>●授業内容 1. プロセス開発と反応工学:2. プロセス開発と触媒工学:3. 水素製造プロセス:4. グリーンプロセス:5. 触媒の機能評価:6. 触媒工学の分子論:7. 反応分離:8. 燃料電池反応器:9. マイクロリアクター</p> <p>●教科書 必要に応じて指定する</p> <p>●参考書 適宜紹介する。</p> <p>●評価方法と基準 毎回のレポート (50%)、期末試験 (50%) で評価し、100点満点の60点以上を合格とする。</p> <p>●履修条件・注意事項</p> <p>●質問への対応 オフィスアワー (水曜日13:00-15:00) またはe-mailで受け付ける</p> | | |

| 機械的分離プロセス工学特論 (2.0単位) | | |
|---|----------|---------------------|
| 科目区分 | 主専攻科目 | 主分野科目 |
| 課程区分 | 前期課程 | |
| 授業形態 | 講義 | |
| 対象履修コース | 分子化学工学分野 | 生物機能工学分野 エネルギー理工学専攻 |
| 開講時期1 | 1年前期 | 1年前期 2年前期 |
| 教員 | 入谷 英司 教授 | 向井 康人 准教授 |
| <p>●本講座の目的およびねらい ケーク濾過、膜濾過、清澄濾過、沈降、圧搾などの機械的分離プロセスの基礎と最近の研究動向について学習し、これらの知識を工学的に応用できる能力を養う。:達成目標:1. ケーク濾過や膜濾過の基礎と最近の研究動向を理解し、これらに応用できる。:2. 沈降や圧搾の基礎と最近の研究動向を理解し、これらに応用できる。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 機械的分離工学、混相流動、流動及び演習</p> <p>●授業内容 1. 濾過・膜濾過技術、2. 遠心分離技術、3. 圧搾・脱水技術、4. 清澄化技術、5. ダイナミック濾過技術、6. 機械的分離装置、7. 濾材技術、8. 水利用のための機械的分離技術、9. 環境浄化のための機械的分離技術、10. 食品・バイオ・医薬品分野における機械的分離技術</p> <p>●教科書 化学工学の進歩39「粒子・流体系フロンティア分離技術」、積書店、2005</p> <p>●参考書 最近の化学工学51「粒子・流体系分離工学の展開」、化学工業社、1999; :化学工学便覧-第5版一、丸善、1999; :絵とき 濾過技術 基礎のきそ、日刊工業新聞社、2011</p> <p>●評価方法と基準 中間試験30%、期末試験30%、演習・レポート30%、授業態度10%、100点満点で60点以上を合格とする。</p> <p>●履修条件・注意事項</p> <p>●質問への対応 講義終了時に対応する。</p> | | |

| 拡散プロセス工学特論 (2.0単位) | | |
|---|----------|------------|
| 科目区分 | 主専攻科目 | 主分野科目 |
| 課程区分 | 前期課程 | |
| 授業形態 | 講義 | |
| 対象履修コース | 分子化学工学分野 | エネルギー理工学専攻 |
| 開講時期1 | 2年後期 | 1年後期 |
| 教員 | 後藤 元信 教授 | 二井 晋 准教授 |
| <p>●本講座の目的およびねらい 拡散分離操作の基本である相間分配平衡ならびに物質移動速度に対する理解を深め、複雑な分離プロセスの設計法を学ぶことにより新たな展開への対応能力を養う。またコロイドと分散系と界面現象を物理化学的な観点から講述する。達成目標1. コロイドまたは界面現象を理解できる。2. 化学工学的観点の速度論を理解できる。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 拡散操作、移動現象論、物理化学、物質移動論</p> <p>●授業内容 1. 界面活性剤とその性質 2. コロイド \ 3. 界面電気現象とコロイド安定性 \ 4. DLVO理論 \ 5. 粒子の分散と凝集 \ 6. 吸着理論 \ 7. 速度過程と平衡状態 \ 8. 速度論の基礎 \ 9. 境界の概念 \ 10. 物質と熱の移動 \ 11. 反応と拡散</p> <p>●教科書 「速度論」 朝倉書店</p> <p>●参考書</p> <p>●評価方法と基準 適宜レポート提出を求める。各回のレポートを100点満点で評価し、全レポートの平均点60点以上を合格とする。</p> <p>●履修条件・注意事項</p> <p>●質問への対応 講義終了時に受け付ける。 担当教員: 後藤 内線3392、ngoto@nuce.nagoya-u.ac.jp 二井 内線3390、ni@nuce.nagoya-u.ac.jp</p> | | |

| プロセスシステム工学特論 (2.0単位) | | |
|--|-----------|------------|
| 科目区分 | 主専攻科目 | 主分野科目 |
| 課程区分 | 前期課程 | |
| 授業形態 | 講義 | |
| 対象履修コース | 分子化学工学分野 | エネルギー理工学専攻 |
| 開講時期1 | 2年後期 | 1年後期 |
| 教員 | 小野木 克明 教授 | 橋爪 進 講師 |
| <p>●本講座の目的およびねらい プロセスシステムのモデリング、解析、設計、制御に関する理論と応用について修得する。 達成目標 1. 非線形計画法を修得し、具体的問題に応用できる。 2. 離散事象システムを理解し、そのモデルをもとにシステムの解析、設計、制御に関する問題を解くことができる。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 システム計画、システム制御</p> <p>●授業内容 1. 最適化の概念 2. 非線形計画法 3. 離散事象システムの解析 4. 離散事象システムの設計と制御</p> <p>●教科書 随時、講義資料を配布する。</p> <p>●参考書 E.K.P.Chong and S.H.Zak: An Introduction to Optimization (3rd Ed.), Wiley C.G.Cassandras and S. LaFortune: Introduction to Discrete Event Systems (2nd Ed.), Springer</p> <p>●評価方法と基準 レポート (50%)、授業態度 (50%) で成績を評価し、100点満点で60点以上を合格とする。</p> <p>●履修条件・注意事項</p> <p>●質問への対応 講義終了時やメールで対応する。 E-mail: 小野木(onogi@nuce.nagoya-u.ac.jp), 橋爪(hashi@nuce.nagoya-u.ac.jp)</p> | | |

| 資源・環境学特論 (2.0単位) | | |
|---|----------|------------|
| 科目区分 | 主専攻科目 | 主分野科目 |
| 課程区分 | 前期課程 | |
| 授業形態 | 講義 | |
| 対象履修コース | 分子化学工学分野 | エネルギー理工学専攻 |
| 開講時期1 | 1年後期 | 2年後期 |
| 教員 | 堀添 浩俊 教授 | 安田 啓司 准教授 |
| <p>●本講座の目的およびねらい 資源・環境・エネルギー問題に関する要素技術、現況および将来展望が講義される。これらの問題に対する学生の意識を高揚させる。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目</p> <p>●授業内容 1. 資源・環境・エネルギー問題と政策、2. 大気公害と防止技術、3. 水質公害と防止技術、4. 土壌公害と防止技術、5. 新エネルギー技術 (特にバイオマス)</p> <p>●教科書</p> <p>●参考書 化学工学便覧 第6版 (丸善) : 新・公害防止の技術と法規 2006 (大気編) (丸善) : 新・公害防止の技術と法規 2006 (水質編) (丸善) : 新・公害防止の技術と法規 2006 (ダイオキシン類編) (丸善)</p> <p>●評価方法と基準 レポート</p> <p>●履修条件・注意事項</p> <p>●質問への対応</p> | | |

| エネルギー電子制御工学特論 (2.0単位) | | |
|---|-------------|------------|
| 科目区分 | 主専攻科目 | 主分野科目 |
| 課程区分 | 前期課程 | |
| 授業形態 | 講義 | |
| 対象履修コース | 量子エネルギー工学分野 | エネルギー理工学専攻 |
| 開講時期1 | 1年後期 | 1年後期 |
| 開講時期2 | 2年後期 | 2年後期 |
| 教員 | 山本 章夫 教授 | |
| <p>●本講座の目的およびねらい 動力炉の炉心設計に使用されている最新の核計算手法を系統的に講義する。達成目標は以下の通りである。 ・炉心設計に用いられている最新の核計算手法の理論的基礎を理解する。 ・最新の核計算手法の数値計算アルゴリズムを理解する。 ・最新の核計算手法の適用限界を理解する。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 原子炉物理学、計算機プログラミング</p> <p>●授業内容 ・中性子輸送理論 (衝突確率・MOC) ・減速計算 ・共鳴計算 ・均質化と近代ノード法 ・断面積ライブラリとその処理 ・燃焼計算の数値解法 ・空間依存特性とその応用 ・燃料運用と装荷パターン最適化 ・不確かさ評価と感度解析</p> <p>●教科書 資料は講義時に配布</p> <p>●参考書 なし</p> <p>●評価方法と基準 レポートにて評価する。100点満点で60点で合格。</p> <p>●履修条件・注意事項</p> <p>●質問への対応 講義の後、もしくはE-mailにて随時受け付ける</p> | | |

| 中性子・原子核科学特論 (2.0単位) | | |
|---|-------------|--------------------|
| 科目区分 | 主専攻科目 | 主分野科目 |
| 課程区分 | 前期課程 | |
| 授業形態 | 講義 | |
| 対象履修コース | 量子エネルギー工学分野 | エネルギー理工学専攻 |
| 開講時期1 | 2年前期 | 2年前期 |
| 教員 | 瓜谷 章 教授 | 渡辺 賢一 准教授 小島 康明 講師 |
| <p>●本講座の目的およびねらい 中性子と物質の相互作用、原子核の基本的性質や放射線、原子核の崩壊を学習し、原子核の構造や核反応などの基礎的事項を理解する。これを基に中性子・原子核分野における応用、エネルギーとの関係を理解し、学ぶ。また、これらに関連したレーザー計測、質量分析技術についても学ぶ。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 量子力学、原子物理学、放射線計測学、</p> <p>●授業内容 1. 原子核の基本的性質、2. 放射能、3. 原子核の崩壊 4. 放射線と物質との相互作用、5. 原子核の構造、6. 核反応、7. 放射線検出器、8. 加速器、9. 核分光 10. 中性子と物質の相互作用 11. 中性子計測法 12. 放射線・中性子利用技術 13. 核変換生成物検出 14. レーザー計測 15. 質量分析法</p> <p>●教科書 必要に応じて講義資料を配付する。</p> <p>●参考書 原子核物理 (影山誠三郎; 朝倉書店) 原子核物理学 (八木浩輔; 朝倉書店) \ など</p> <p>●評価方法と基準 レポート (70%) とテスト (30%) を行い、目標達成度を評価する。 成績評価基準は以下の通りである。 <平成23年度以降入・進学者> 100~90点: S, 89~80点: A, 79~70点: B, 69~60点: C, 59点以下: F <平成22年度以前入・進学者> 100~80点: A, 79~70点: B, 69~60点: C, 59点以下: D</p> <p>●履修条件・注意事項</p> <p>●質問への対応 質問への対応: 講義時に対応する。</p> | | |

| エネルギー理工学特別講義 (2.0単位) | | |
|---|-------------|-------|
| 科目区分 | 主専攻科目 | 主分野科目 |
| 課程区分 | 前期課程 | |
| 授業形態 | 講義 | |
| 対象履修コース | エネルギー理工学専攻 | |
| 開講時期1 | 1年前期 | |
| 開講時期2 | 2年前期 | |
| 教員 | 各教員 (エネルギー) | |
| <p>●本講座の目的およびねらい エネルギー理工学に関する最新の知見や動向と将来の課題について講義をする。 達成目標 \</p> <p>1. エネルギー分野での最新の展望を理解し、説明できる。 \ 2. エネルギー分野での今後の課題を見つける。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 超電導工学、材料工学、流体力学、伝熱工学、環境工学、プラズマ学、核融合</p> <p>●授業内容 1. 地球温暖化に対するエネルギー技術対策 2. エネルギー政策 \ 3. 薄膜シリコン系太陽電池の研究開発最前線 \ 4. FBRの実用化技術に関する研究開発</p> <p>●教科書 なし</p> <p>●参考書 なし</p> <p>●評価方法と基準 達成目標に対する評価の重みは同等である。講義内容の主題ごとに課題を出す。そのレポートで評価し、100点満点で60点以上を合格とする。 <平成23年度以降入・進学者> S: 100~90点, A: 89~80点, B: 79~70点, C: 69~60点, F: 59点以下 <平成22年度以前入・進学者> A: 100~80点, B: 79~70点, C: 69~60点, D: 59点以下</p> <p>●履修条件・注意事項</p> <p>●質問への対応</p> | | |

| エネルギー材料デバイス工学特別実験及び演習 (2.0単位) | |
|--|---|
| 科目区分 | 主専攻科目 主分野科目 |
| 課程区分 | 前期課程 |
| 授業形態 | 実験及び演習 |
| 対象履修コース | エネルギー理工学専攻 |
| 開講時期1 | 1年前後期 |
| 教員 | 吉田 隆 教授 藤田 隆明 教授 庄司 多津男 准教授 一野 祐亮 准教授 有本 英樹 助教 |
| <p>●本講座の目的およびねらい 超伝導材料, エネルギー変換材料, プラズマなどについて知識を習得すると共に, エネルギー材料の応用についても理解を深める。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 電気磁気学, 物理学基礎, 固体電子工学, 原子炉材料, プラズマ理工学</p> <p>●授業内容 1. エネルギー材料基本特性評価技術 2. エネルギー材料の応用技術 などに関する実験・演習を行う。</p> <p>●教科書</p> <p>●参考書</p> <p>●評価方法と基準 発表及び議論</p> <p>●履修条件・注意事項</p> <p>●質問への対応</p> | |

| 熱エネルギーシステム工学特別実験及び演習 (2.0単位) | |
|--|---|
| 科目区分 | 主専攻科目 主分野科目 |
| 課程区分 | 前期課程 |
| 授業形態 | 実験及び演習 |
| 対象履修コース | エネルギー理工学専攻 |
| 開講時期1 | 1年前後期 |
| 教員 | 松田 仁樹 教授 辻 義之 教授 伊藤 高啓 准教授 出口 清一 講師 窪田 光宏 助教 |
| <p>●本講座の目的およびねらい 熱エネルギーシステム工学に関する基礎実験および演習によって研究手法を修得させる。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 流体力学, 熱力学, 伝熱工学, 移動現象論</p> <p>●授業内容 1. 熱流動計測手法 2. 熱流動解析手法 3. エネルギーシステム設計手法 4. 分離・無害化・浄化技術設計手法 5. 熱・物質同時移動解析手法</p> <p>●教科書 なし</p> <p>●参考書 適宜, 紹介する</p> <p>●評価方法と基準 レポート及び口頭発表 総合的に100点満点で60点以上を合格とし, 90-100点をS, 80-89点をA, 70-79点をB, 60-69点をC, 59点以下をFとする。</p> <p>●履修条件・注意事項</p> <p>●質問への対応 適宜, 質問を研究室および居室などにて受け付ける</p> | |

| プラズマエネルギー理工学特別実験及び演習 (2.0単位) | |
|--|---|
| 科目区分 | 主専攻科目 主分野科目 |
| 課程区分 | 前期課程 |
| 授業形態 | 実験及び演習 |
| 対象履修コース | エネルギー理工学専攻 |
| 開講時期1 | 1年前後期 |
| 教員 | 大野 哲靖 教授 久保 伸 教授 渡邊 清政 教授 中村 浩章 教授 井戸 毅 准教授 梶田 信 准教授 兼原 竜弥 助教 |
| <p>●本講座の目的およびねらい 1. 周辺プラズマを中心としてプラズマ物性の基礎に関する理解を深めるために実験及び演習を行う。: 2. 実際の高温プラズマ閉じ込め装置において, プラズマの輸送現象を考慮した温度, 密度分布等の制御及びプラズマと壁との相互作用に関する基礎的な実験及び演習を行う。: 3. 高周波によりプラズマを生成し基礎的なパラメータを測定することにより, 加熱実験及び高周波技術に対する基礎的な教育を行う。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 電気磁気学, 力学, プラズマ (放電) 工学, その他の基礎物理</p> <p>●授業内容 1. 周辺プラズマの探針計測: 2. 周辺プラズマの輸送過程: 3. SEMによる固体表面観察 : 4. 周辺プラズマにおける分光計測: 5. 各種プラズマ揺動データ収集と解析: 6. 壁への熱流及び粒子束の測定: 7. アンテナと高周波発振器のインピーダンス整合, 高周波によるプラズマ生成</p> <p>●教科書</p> <p>●参考書</p> <p>●評価方法と基準 セミナーにおける口頭発表とそれに対する質疑応答により, 目標達成度を評価する。総合点60点以上を合格とし, 60点以上69点までをC, 70点以上79点までをB, 80点以上89点までをA, 90点以上をSとする。但し, 平成22年度以前の入・進学者については, 80点以上をAとする。</p> <p>●履修条件・注意事項</p> <p>●質問への対応</p> | |

| エネルギー環境工学特別実験及び演習 (2.0単位) | |
|--|----------------------------|
| 科目区分 | 主専攻科目 主分野科目 |
| 課程区分 | 前期課程 |
| 授業形態 | 実験及び演習 |
| 対象履修コース | エネルギー理工学専攻 |
| 開講時期1 | 1年前後期 |
| 教員 | 山澤 弘実 教授 森泉 純 准教授 平尾 茂一 助教 |
| <p>●本講座の目的およびねらい 原子力を含めたエネルギー利用に伴う地球規模から地域規模での環境問題, 環境放射能・放射線の特性, ならびに放射線の健康影響に関する安全評価に関する基礎力獲得のための実験および応用力涵養のための演習を行う。: 達成目標: 1. エネルギー利用に伴う環境問題を理解し, 説明できる。: 2. 環境放射能・放射線の特性を理解し, それらの被曝評価ができる。: 3. 環境パラメータの測定法を習得し, 実行できる。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 放射線保健物理学, 原子核計測学, 移動現象論</p> <p>●授業内容 1. 環境放射能の測定および動態の数値計算: 2. 環境中炭素循環の測定および評価: 3. 環境物質および気象の測定と解析: 4. 関連する環境計測法の習得と改良</p> <p>●教科書 テキストは特になし。実験や演習を行う前に, 関連する図書や文献を十分に調査すること。</p> <p>●参考書 なし</p> <p>●評価方法と基準 達成目標に対する評価の重みは同等である。課題レポートで評価し, 100点満点で60点以上を合格とする。 100~90点: S, 89~80点: A, 79~70点: B, 69~60点: C, 59点以下: F</p> <p>●履修条件・注意事項</p> <p>●質問への対応</p> | |

| 研究発表技術及び演習 (1.0単位) | |
|---|-------------|
| 科目区分 | 主専攻科目 主分野科目 |
| 課程区分 | 前期課程 |
| 授業形態 | 実験及び演習 |
| 対象履修コース | エネルギー理工学専攻 |
| 開講時期1 | 2年後期 |
| 教員 | 各教員 (エネルギー) |
| <p>●本講座の目的およびねらい 論理的かつ効果的な発表の方法ならびに質疑応答の方法について学び、自身の日本語および英語での研究発表に応用する。達成目標 1. 日本語での発表用ポスターを製作できる。 2. 日本語での口頭発表と質疑応答ができる。 3. 英語によるポスターまたは口頭発表ができる。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 技術英語</p> <p>●授業内容 1. 博士課程前期課程論文中間発表におけるポスター発表技術 2. 国内会議および博士課程前期課程論文の口頭発表技術 3. 国際会議における英語によるポスターと口頭発表技術</p> <p>●教科書 なし</p> <p>●参考書 なし</p> <p>●評価方法と基準 達成目標に対する評価の重みは同等である。講義内容の主題ごとに口頭発表または口頭試問で評価する。100点満点で60点以上を合格とする。</p> <p>●履修条件・注意事項 なし</p> <p>●質問への対応 なし</p> | |

| 高度総合工学創造実験 (3.0単位) | |
|--|----------|
| 科目区分 | 総合工科学科 |
| 課程区分 | 前期課程 |
| 授業形態 | 実験及び演習 |
| 全専攻・分野 | 共通 |
| 開講時期1 | 1年前後期 |
| 開講時期2 | 2年前後期 |
| 教員 | 田川 智彦 教授 |
| <p>●本講座の目的およびねらい 異なる専門分野からなる数人のチームを編制し、企業からの非常勤講師(Directing Professor)の下に自主的研究を行う。その目的およびねらいは、 1. 異種集団グループダイナミクスによる創造性の活性化、 2. 異種集団グループダイナミクスならではの発明、発見体験、 3. 自己専門の可能性と限界の認識、 4. 自らの能力で知識を総合力化できるようにすることである。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 「高度総合工学創造実験」は、産学連携教育科目と位置づけられる。従って、「ベンチャービジネス特論1, II」および学部開講科目「特許および知的財産」、「経営工学」、「産業と経済」、「工学倫理」等の同様の産学連携教育関連科目の履修を強く推奨する。</p> <p>●授業内容 異なる専攻・学部の学生からなる数人で1チームを編制し、Directing Professorの指導の下に設定したプロジェクトを60時間(3カ月)【週1日】にわたりTA(ティーチングアシスタント)とともに遂行する。1週間のとりまとめ・準備の後、各チーム毎に発表および展示・討論を行う。具体的な内容は次のHPを参照。 http://www.cplaza.engg.nagoya-u.ac.jp/jikken/jikken.html</p> <p>●教科書 特になし。</p> <p>必要に応じて、授業時に適宜紹介する。</p> <p>●参考書 特になし。</p> <p>必要に応じて、授業時に適宜紹介する。</p> <p>●評価方法と基準 実験の遂行、討論と発表会により、目標達成度を評価する。100点満点で60点以上を合格とする。</p> <p>●履修条件・注意事項 なし</p> <p>●質問への対応 原則、授業時に対応する。</p> | |

| 研究インターンシップ1 (2.0単位) | |
|--|----------|
| 科目区分 | 総合工科学科 |
| 課程区分 | 前期課程 |
| 授業形態 | 実習 |
| 全専攻・分野 | 共通 |
| 開講時期1 | 1年前後期 |
| 開講時期2 | 2年前後期 |
| 教員 | 田川 智彦 教授 |
| <p>●本講座の目的およびねらい 就業体験を目的とする従来のインターンシップとは異なり、企業と大学が協力して研究テーマを設定し、両者の指導の下で1~6ヶ月に亘る長期のインターンシップを実施する。それにより、専門分野に加え学際分野の研究開発能力を備えた人材と、研究企画・統括などに優れた見識を備えた人材となる素養を身につける。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 「研究インターンシップ」を受講する学生に対しては、その事前指導として、短期の「特許および知的財産」を受講すること、「ベンチャービジネス特論1」または「同 II」を受講することが強く推奨される。</p> <p>●授業内容 ・企業と大学の協議のもとで設定された課題に学生が応募する。 ・学生・教員・企業指導者間で課題を調整したのち、大学で守秘義務・知的財産保護等に関する事前指導を受ける。また各自課題に取り組むための専門知識の獲得にも努める。 ・1~6ヶ月間企業に滞在しインターンシップを実施する。 ・終了後に、参加学生、大学教員、企業側指導者間で報告会と技術交流会を開催する。</p> <p>●教科書 特になし。</p> <p>●参考書 特になし。</p> <p>●評価方法と基準 企業において研究インターンシップに従事した総日数20日以下のものに与えられる。</p> <p>●履修条件・注意事項 なし</p> <p>●質問への対応 研修時に直接指導するスタッフ等が随時対応。</p> | |

| 研究インターンシップ1 (3.0単位) | |
|---|----------|
| 科目区分 | 総合工科学科 |
| 課程区分 | 前期課程 |
| 授業形態 | 実習 |
| 全専攻・分野 | 共通 |
| 開講時期1 | 1年前後期 |
| 開講時期2 | 2年前後期 |
| 教員 | 田川 智彦 教授 |
| <p>●本講座の目的およびねらい 就業体験を目的とする従来のインターンシップとは異なり、企業と大学が協力して研究テーマを設定し、両者の指導の下で1~6ヶ月に亘る長期のインターンシップを実施する。それにより、専門分野に加え学際分野の研究開発能力を備えた人材と、研究企画・統括などに優れた見識を備えた人材となる素養を身につける。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 「研究インターンシップ」を受講する学生に対しては、その事前指導として、短期の「特許および知的財産」を受講すること、「ベンチャービジネス特論1」または「同 II」を受講することが強く推奨される。</p> <p>●授業内容 ・企業と大学の協議のもとで設定された課題に学生が応募する。 ・学生・教員・企業指導者間で課題を調整したのち、大学で守秘義務・知的財産保護等に関する事前指導を受ける。また各自課題に取り組むための専門知識の獲得にも努める。 ・1~6ヶ月間企業に滞在しインターンシップを実施する。 ・終了後に、参加学生、大学教員、企業側指導者間で報告会と技術交流会を開催する。</p> <p>●教科書 特になし。</p> <p>●参考書 特になし。</p> <p>●評価方法と基準 企業において研究インターンシップに従事した総日数21日以上40日以下のものに与えられる。</p> <p>●履修条件・注意事項 なし</p> <p>●質問への対応 研修時に直接指導するスタッフ等が随時対応。</p> | |

| 研究インターンシップ1 (4.0単位) | |
|--|----------|
| 科目区分 | 総合工学科目 |
| 課程区分 | 前期課程 |
| 授業形態 | 実習 |
| 全専攻・分野 | 共通 |
| 開講時期 1 | 1年前後期 |
| 開講時期 2 | 2年前後期 |
| 教員 | 田川 智彦 教授 |
| <p>●本講座の目的およびねらい 就業体験を目的とする従来のインターンシップとは異なり、企業と大学が協力して研究テーマを設定し、両者の指導の下で1～6ヶ月に亘る長期のインターンシップを実施する。それにより、専門分野に加え学際分野の研究開発能力を備えた人材と、研究企画・統括などに優れた見識を備えた人材となる素養を身につける。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 「研究インターンシップ」を受講する学生に対しては、その事前指導として、短期の「特許および知的財産」を受講すること、「ベンチャービジネス特論I」または「同 II」を受講することが強く推奨される。</p> <p>●授業内容 ・企業と大学の協議のもとで設定された課題に学生が応募する。 ・学生・教員・企業指導者間で課題を調整したのち、大学で守秘義務・知的財産保護等に関する事前指導を受ける。また各自課題に取り組むための専門知識の獲得にも努める。 ・1～6ヶ月間企業に滞在しインターンシップを実施する。 ・終了後に、参加学生、大学教員、企業側指導者間で報告会と技術交流会を開催する。</p> <p>●教科書 特になし。</p> <p>●参考書 特になし。</p> <p>●評価方法と基準 企業において研究インターンシップに従事した総日数41日以上60日以下のものに与えられる。</p> <p>●履修条件・注意事項</p> <p>●質問への対応 研修時に直接指導するスタッフ等が随時対応。</p> | |

| 研究インターンシップ1 (6.0単位) | |
|---|----------|
| 科目区分 | 総合工学科目 |
| 課程区分 | 前期課程 |
| 授業形態 | 実習 |
| 全専攻・分野 | 共通 |
| 開講時期 1 | 1年前後期 |
| 開講時期 2 | 2年前後期 |
| 教員 | 田川 智彦 教授 |
| <p>●本講座の目的およびねらい 就業体験を目的とする従来のインターンシップとは異なり、企業と大学が協力して研究テーマを設定し、両者の指導の下で1～6ヶ月に亘る長期のインターンシップを実施する。それにより、専門分野に加え学際分野の研究開発能力を備えた人材と、研究企画・統括などに優れた見識を備えた人材となる素養を身につける。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 「研究インターンシップ」を受講する学生に対しては、その事前指導として、短期の「特許および知的財産」を受講すること、「ベンチャービジネス特論I」または「同 II」を受講することが強く推奨される。</p> <p>●授業内容 ・企業と大学の協議のもとで設定された課題に学生が応募する。・学生・教員・企業指導者間で課題を調整したのち、大学で守秘義務・知的財産保護等に関する事前指導を受ける。また各自課題に取り組むための専門知識の獲得にも努める。・1～6ヶ月間企業に滞在しインターンシップを実施する。・終了後に、参加学生、大学教員、企業側指導者間で報告会と技術交流会を開催する。</p> <p>●教科書 特になし。</p> <p>●参考書 特になし。</p> <p>●評価方法と基準 企業において研究インターンシップに従事した総日数61日以上80日以下のものに与えられる。</p> <p>●履修条件・注意事項</p> <p>●質問への対応 研修時に直接指導するスタッフ等が随時対応。</p> | |

| 研究インターンシップ1 (8.0単位) | |
|---|----------|
| 科目区分 | 総合工学科目 |
| 課程区分 | 前期課程 |
| 授業形態 | 実習 |
| 全専攻・分野 | 共通 |
| 開講時期 1 | 1年前後期 |
| 開講時期 2 | 2年前後期 |
| 教員 | 田川 智彦 教授 |
| <p>●本講座の目的およびねらい 就業体験を目的とする従来のインターンシップとは異なり、企業と大学が協力して研究テーマを設定し、両者の指導の下で1～6ヶ月に亘る長期のインターンシップを実施する。それにより、専門分野に加え学際分野の研究開発能力を備えた人材と、研究企画・統括などに優れた見識を備えた人材となる素養を身につける。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 「研究インターンシップ」を受講する学生に対しては、その事前指導として、短期の「特許および知的財産」を受講すること、「ベンチャービジネス特論I」または「同 II」を受講することが強く推奨される。</p> <p>●授業内容 ・企業と大学の協議のもとで設定された課題に学生が応募する。・学生・教員・企業指導者間で課題を調整したのち、大学で守秘義務・知的財産保護等に関する事前指導を受ける。また各自課題に取り組むための専門知識の獲得にも努める。・1～6ヶ月間企業に滞在しインターンシップを実施する。・終了後に、参加学生、大学教員、企業側指導者間で報告会と技術交流会を開催する。</p> <p>●教科書 特になし。</p> <p>●参考書 特になし。</p> <p>●評価方法と基準 企業において研究インターンシップに従事した総日数81日以上のもに与えられる。</p> <p>●履修条件・注意事項</p> <p>●質問への対応 研修時に直接指導するスタッフ等が随時対応。</p> | |

| 最先端理工学特給 (1.0単位) | |
|---|-----------|
| 科目区分 | 総合工学科目 |
| 課程区分 | 前期課程 |
| 授業形態 | 講義 |
| 全専攻・分野 | 共通 |
| 開講時期 1 | 1年前後期 |
| 開講時期 2 | 2年前後期 |
| 教員 | 永野 修作 准教授 |
| <p>●本講座の目的およびねらい 工学における最先端研究の動向を学び、また、その研究を行うために必要な高度な知識を習得させることを目的とする。シンポジウム形式の学術討論を通して、最先端理工学研究を学び、テーマとなる分野の最新動向を学び、議論する。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目</p> <p>●授業内容 最先端工学に関する特別講義を受講し、また、最先端工学の研究発表が行われるシンポジウムやセミナーへ参加し、レポートを提出する。</p> <p>●教科書</p> <p>●参考書</p> <p>●評価方法と基準 レポート</p> <p>●履修条件・注意事項</p> <p>●質問への対応</p> | |

| 最先端理工学実験 (1.0単位) | |
|---|-----------|
| 科目区分 | 総合工科学目 |
| 課程区分 | 前期課程 |
| 授業形態 | 実験 |
| 全専攻・分野 | 共通 |
| 開講時期 1 | 1年前後期 |
| 開講時期 2 | 2年前後期 |
| 教員 | 永野 修作 准教授 |
| <p>●本講座の目的およびねらい 工学における最先端研究の動向を実践をもって学ぶことを目的とし、その研究を行うために必要な高度な実験に関する知識と技術、プレゼンテーション技術を総合的に習得する。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目</p> <p>●授業内容 あらかじめ設定された実験（課題実験）あるいは受講者が提案する実験（独創実験）のいずれかからテーマを選択し、実験を行う。結果を整理し、成果発表を行う。</p> <p>●教科書</p> <p>●参考書</p> <p>●評価方法と基準 演習（50%）、研究成果発表とレポート（50%）で評価する。100点満点で60点以上を合格とする</p> <p>●履修条件・注意事項</p> <p>●質問への対応</p> | |

| コミュニケーション学 (1.0単位) | |
|--|-----------|
| 科目区分 | 総合工科学目 |
| 課程区分 | 前期課程 |
| 授業形態 | 講義 |
| 全専攻・分野 | 共通 |
| 開講時期 1 | 1年後期 |
| 開講時期 2 | 2年後期 |
| 教員 | 古谷 礼子 准教授 |
| <p>●本講座の目的およびねらい 母国語でない言葉で論文を上手に発表するために必要な留意事項を学ぶ。留学生は日本語で発表する。日本人学生も受講することができるが、発表は英語で行う。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目</p> <p>●授業内容 (1) ビデオ録画された論文発表を見る： モデル発表を見てよい発表とは何かを討論し、発表する時に必要なテクニックを学ぶ。(2) 発表する： クラスで討論した発表のテクニックを用いて、学生各自が主題を選んで論文を発表する。(3) 討論する： クラスメイトの発表を相互に評価し合う： きびしい意見、激励や助言をお互いに交わす</p> <p>●教科書 なし</p> <p>●参考書 (1) 「英語プレゼンテーションの技術」： 安田 正、ジャック ニクリン著： The Japan Times (2) 「研究発表の方法 留学生のためのレポート作成： 口頭発表の準備の手続き」： 産能短期大学日本語教育研究室著： 凡人社</p> <p>●評価方法と基準 発表論文とclass discussion (平常点)の結果による</p> <p>●履修条件・注意事項</p> <p>●質問への対応</p> | |

| 先端自動車工学特論 (3.0単位) | |
|--|------------|
| 科目区分 | 総合工科学目 |
| 課程区分 | 前期課程 |
| 授業形態 | 講義 |
| 全専攻・分野 | 共通 |
| 開講時期 1 | 1年春学期 |
| 開講時期 2 | 2年春学期 |
| 開講時期 3 | 3年春学期 |
| 教員 | 石田 幸男 特任教授 |
| <p>●本講座の目的およびねらい</p> <p>●バックグラウンドとなる科目</p> <p>●授業内容</p> <p>●教科書</p> <p>●参考書</p> <p>●評価方法と基準</p> <p>●履修条件・注意事項</p> <p>●質問への対応</p> | |

| 科学技術英語特論 (1.0単位) | |
|--|------------|
| 科目区分 | 総合工科学目 |
| 課程区分 | 前期課程 |
| 授業形態 | 講義 |
| 全専攻・分野 | 共通 |
| 開講時期 1 | 1年後期 |
| 開講時期 2 | 2年後期 |
| 教員 | 非常勤講師 (教務) |
| <p>●本講座の目的およびねらい 研究成果をまとめて国際的学術誌に英文で投稿し、さらに国際会議において英語でプレゼンテーションを行う能力を養う。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 英語学に関する諸科目</p> <p>●授業内容 外国人教員による英語の講義 1. Simplicity and clarity in English 2. English grammar: Common problems 3. Readability I: Sentences and paragraphs 4. Readability II: Parallelism and other matters of style 5. Readability III: Writing scientific papers 6. Public speaking at international conferences 7. Email, CVs, and job applications</p> <p>●教科書</p> <p>●参考書 Students receive all printed materials for each lecture from the instructor. They also receive extensive annotated bibliographies of resources for academic, scientific, and technical English.</p> <p>●評価方法と基準 発表内容、質疑応答、出席状況</p> <p>●履修条件・注意事項</p> <p>●質問への対応</p> | |

| ベンチャービジネス特論Ⅰ (2.0単位) | |
|---|-----------|
| 科目区分 | 総合工学科目 |
| 課程区分 | 前期課程 |
| 授業形態 | 講義 |
| 全専攻・分野 | 共通 |
| 開講時期 1 | 1年前期 |
| 開講時期 2 | 2年前期 |
| 教員 | 永野 修作 准教授 |
| <p>●本講座の目的およびねらい 我が国の産業のバックグラウンド又は最先端を担うべきベンチャー企業の層が薄いことは頻りに指摘される。その原因の一部は、制度の違いによるが、欧米の研究者や大学生との意識の差に起因する所も少なくない。本講座では、「大学の研究」を事業化/起業する際の技術者・研究者として必要な基本的な知識と目標を明確に教授する。大学の研究成果をベースにした技術開発・事業化、企業内起業やベンチャー起業の実例を示し、研究を生かしたベンチャービジネスを考える。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 卒業研究、修士課程の研究</p> <p>●授業内容 1. 事業化と起業 なぜベンチャー起業か ---リスクとメリット--- 2. 事業化と起業の知識と準備 ---技術者・研究者として抑えるべきポイント--- 3. 大学の研究から事業化・起業へ ---企業における研究開発の進め方--- 4. 事業化の推進 ---事業化のための様々な交渉と市場調査--- 5. 名大発の事業化と起業(1): 電子デバイス分野 6. 名大発の事業化と起業(2): 金属、材料分野 7. 名大発の事業化と起業(3): バイオ、医療分野 8. 名大発の事業化と起業(4): 加工装置分野 9. 名大発の事業化と起業(4): 化学分野 10. まとめ</p> <p>●教科書 「実践起業論 新しい時代を創れ!」南部修太郎/(株)アセット・ウィッツ その他、適宜資料配布 適宜指導</p> <p>●参考書 「ベンチャー経営心得」南部修太郎/(株)アセット・ウィッツ その他、適宜指導</p> <p>●評価方法と基準 レポート提出および出席</p> <p>●履修条件・注意事項 ●質問への対応</p> | |

| ベンチャービジネス特論Ⅱ (2.0単位) | |
|---|--------------------|
| 科目区分 | 総合工学科目 |
| 課程区分 | 前期課程 |
| 授業形態 | 講義 |
| 全専攻・分野 | 共通 |
| 開講時期 1 | 1年後期 |
| 開講時期 2 | 2年後期 |
| 教員 | 永野 修作 准教授 枝川 明敬 教授 |
| <p>●本講座の目的およびねらい 前期Iにおいて講義された事業化、企業内起業やベンチャー起業の実例等を参考に、起業化や創業のために必要不可欠な専門的な知識を公認会計士や中小企業診断士等の専門家を交えて講義する。受講生の知識の範囲を考慮し、前半では経営学の基本的知識の起業化への応用と展開について教授し、後半では、経営戦略、ファイナンスといったMBAで通常講義されている内容の基礎を理解する。受講の前提として、身近な起業化の例を講義する前期Iを受講するのが望ましい。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 ベンチャービジネス特論I、卒業研究、修士課程の研究、経営学、経済学の基礎知識があればなおよい。</p> <p>●授業内容 1. 日本経済とベンチャービジネス 2. ベンチャービジネスの現状 3. ベンチャーと経営戦略 4. ベンチャーとマーケティング戦略 5. ベンチャーと企業会計 6. ベンチャーと財務戦略 7. 事例研究(経営戦略に重点) 8. 事例研究(マーケティング戦略に重点) 9. 事例研究(財務戦略に重点) 10. 事例研究(資本政策に重点: IPO企業) 11. ビジネスプラン ビジネス・アイデアと競争優位 12. ビジネスプラン 収益計画 13. ビジネスプラン 資金計画 14. ビジネスプラン ビジネスプランの運用とまとめ 15. まとめ</p> <p>●教科書 講義資料を適宜配布する。</p> <p>●参考書 適宜指導</p> <p>●評価方法と基準 授業中に出席される課題</p> <p>●履修条件・注意事項 ●質問への対応</p> | |

| 学外実習 A (1.0単位) | |
|---|-------------|
| 科目区分 | 総合工学科目 |
| 課程区分 | 前期課程 |
| 授業形態 | 実習 |
| 対象履修コース | エネルギー理工学専攻 |
| 開講時期 1 | 1年前後期 |
| 開講時期 2 | 2年前後期 |
| 教員 | 各教員 (エネルギー) |
| <p>●本講座の目的およびねらい インターンシップとして、自己の専攻や将来のキャリアと関連した就業経験を、一定期間実際の現場で受ける。達成目標 \ 1. 目的意識を持って仕事を行う。 \ 2. 決められた目標を期限内に達成する。 \ 3. 現場での技術を習得する。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 超伝導工学、材料工学、流体力学、伝熱工学、環境工学、プラズマ工学、核融合</p> <p>●授業内容 受入企業の対応により違う。</p> <p>●教科書 なし</p> <p>●参考書 なし</p> <p>●評価方法と基準 達成目標に対する評価の重みは同等である。実習内容について口頭発表または口頭試験で評価する。100点満点で60点以上を合格とする。</p> <p>●履修条件・注意事項 ●質問への対応</p> | |

| 宇宙研究開発探検 (2.0単位) | | | | | | |
|--|--|------|------|------|------|------|
| 科目区分 | 総合工学科目 | | | | | |
| 課程区分 | 前期課程 | | | | | |
| 授業形態 | 講義 | | | | | |
| 対象履修コース | 応用化学分野 分子化学工学分野 生物機能工学分野 材料工学分野 応用物理学分野 量子エネルギー工学分野 電気工学分野 電子工学分野 情報・通信工学分野 機械科学分野 機械情報システム工学分野 電子機械工学分野 航空宇宙工学分野 社会基盤工学分野 結晶材料工学専攻 エネルギー理工学専攻 量子工学専攻 マイクロ・ナノシステム工学専攻 物質制御工学専攻 計算理工学専攻 | | | | | |
| 開講時期 1 | 1年前期 | 1年前期 | 1年前期 | 1年前期 | 1年前期 | 1年前期 |
| 開講時期 2 | 2年前期 | 2年前期 | 2年前期 | 2年前期 | 2年前期 | 2年前期 |
| 教員 | リーディング大学院事業 | 各教員 | | | | |
| <p>●本講座の目的およびねらい 宇宙工学、宇宙科学、ものづくり/数値実験、組織・マネジメント、科学リテラシーなど、宇宙研究開発に必要な基礎知識を、企業経験者を含む各分野の専門家が解説する。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 数学基礎、物理学基礎</p> <p>●授業内容 1. 宇宙研究の課題 2. 宇宙物理学基礎3. 宇宙観測技術 4. 宇宙環境科学 5. 人工衛星開発 6. 宇宙推進工学 7. 複合材料 8. 電子回路技術 9. 放射線検出器 10. 数値実験 1(理学) 11. 数値実験 2(工学) 12. プロジェクトマネジメント 13. 研究開発マネジメント 14. 科学論文執筆、プレゼンテーション技術 15. ビジネスで利用する知的財産の仕組み</p> <p>●教科書 なし</p> <p>●参考書 なし</p> <p>●評価方法と基準 レポートにより、目標達成度を評価する。100点満点で60点以上を合格とする。</p> <p>●履修条件・注意事項 ●質問への対応</p> | | | | | | |

| 国際プロジェクト研究 (3.0単位) | |
|---|------------|
| 科目区分 | 総合工学科目 |
| 課程区分 | 前期課程 |
| 授業形態 | 講義 |
| 全専攻・分野 | 共通 |
| 開講時期 1 | 1年前後期 |
| 開講時期 2 | 2年前後期 |
| 教員 | 各教員(世界展開力) |
| <p>●本講座の目的およびねらい 総合力・国際力を持って国際舞台で活躍できる人材を育成するために、海外の研究開発を体験する。工学に関する共同研究を通して基礎知識、研究能力、コミュニケーション能力の向上を目指す。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 工学全般、英語、技術英語</p> <p>●授業内容 海外の研究機関等での研究開発現場を体験する。担当教員に研究活動の内容を報告し評価を受ける。</p> <p>●教科書</p> <p>●参考書 研究内容に応じ指導教員から指定される。</p> <p>●評価方法と基準 所属研究室の教員による評価、口頭発表 (2.0単位の場合) 海外の研究機関等で研究に従事した総日数20日以下の場合に与えられる。(3.0単位の場合) 海外の研究機関等で研究に従事した総日数21日以上40日以下の場合に与えられる。(4.0単位の場合) 海外の研究機関等で研究に従事した総日数41日以上の場合に与えられる。</p> <p>●履修条件・注意事項</p> <p>●質問への対応</p> | |

| 国際プロジェクト研究 (4.0単位) | |
|---|------------|
| 科目区分 | 総合工学科目 |
| 課程区分 | 前期課程 |
| 授業形態 | 講義 |
| 全専攻・分野 | 共通 |
| 開講時期 1 | 1年前後期 |
| 開講時期 2 | 2年前後期 |
| 教員 | 各教員(世界展開力) |
| <p>●本講座の目的およびねらい 総合力・国際力を持って国際舞台で活躍できる人材を育成するために、海外の研究開発を体験する。工学に関する共同研究を通して基礎知識、研究能力、コミュニケーション能力の向上を目指す。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 工学全般、英語、技術英語</p> <p>●授業内容 海外の研究機関等での研究開発現場を体験する。担当教員に研究活動の内容を報告し評価を受ける。</p> <p>●教科書</p> <p>●参考書 研究内容に応じ指導教員から指定される。</p> <p>●評価方法と基準 所属研究室の教員による評価、口頭発表 (2.0単位の場合) 海外の研究機関等で研究に従事した総日数20日以下の場合に与えられる。(3.0単位の場合) 海外の研究機関等で研究に従事した総日数21日以上40日以下の場合に与えられる。(4.0単位の場合) 海外の研究機関等で研究に従事した総日数41日以上の場合に与えられる。</p> <p>●履修条件・注意事項</p> <p>●質問への対応</p> | |

| 国際協働教育特別講義 (1.0単位) | |
|---|--------|
| 科目区分 | 総合工学科目 |
| 課程区分 | 前期課程 |
| 授業形態 | 講義 |
| 全専攻・分野 | 共通 |
| 開講時期 1 | 1年前後期 |
| 開講時期 2 | 2年前後期 |
| 教員 | (未定) |
| <p>●本講座の目的およびねらい 総合力・国際力を持って国際舞台で活躍できる人材を育成するために、国際性に富む講師による英語での特別講義を受講する。英語による講義を通して基礎知識、研究能力、コミュニケーション能力の向上を目指す。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 工学全般、英語、技術英語</p> <p>●授業内容 英語により地球規模での未来の工学に関する特別講義を行う。</p> <p>●教科書</p> <p>●参考書 資料配付を予定している。</p> <p>●評価方法と基準 質疑応答及びレポートにより評価する。</p> <p>●履修条件・注意事項</p> <p>●質問への対応</p> | |

| 国際協働教育外国語演習 (1.0単位) | |
|---|--------|
| 科目区分 | 総合工学科目 |
| 課程区分 | 前期課程 |
| 授業形態 | 演習 |
| 全専攻・分野 | 共通 |
| 開講時期 1 | 1年前後期 |
| 開講時期 2 | 2年前後期 |
| 教員 | (未定) |
| <p>●本講座の目的およびねらい 総合力・国際力を持って国際舞台で活躍できる人材を育成するために、母国語以外の英語あるいは日本語の外国語演習を行い、授業の受講及び研究の遂行のために必要な語学能力の向上を目指す。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 英語、技術英語、日本語</p> <p>●授業内容 授業の受講及び研究の遂行のため、母国語以外の英語あるいは日本語の演習を行う。</p> <p>●教科書</p> <p>●参考書 未定</p> <p>●評価方法と基準 質疑応答及びレポートにより評価する。</p> <p>●履修条件・注意事項</p> <p>●質問への対応</p> | |

| エネルギー材料デバイス工学セミナー2A (2.0単位) | |
|-----------------------------|---|
| 科目区分 | 主専攻科目 |
| 課程区分 | 後期課程 |
| 授業形態 | セミナー |
| 対象履修コース | エネルギー理工学専攻 |
| 開講時期1 | 1年前期 |
| 教員 | 吉田 隆 教授 藤田 隆明 教授 庄司 多津男 准教授 一野 祐亮 准教授 有本 英樹 助教 |

●本講座の目的およびねらい
超伝導技術、エネルギー変換技術、プラズマ工学などエネルギー材料の基礎についてセミナーを行う。

●バックグラウンドとなる科目
電気磁気学、物理学基礎、固体電子工学、原子炉材料学、プラズマ理工学

●授業内容
1. エネルギー変換の化学と物理
2. エネルギー材料とプラズマ理工学

●教科書

●参考書

●評価方法と基準
セミナー中での発表及び議論

●履修条件・注意事項

●質問への対応

| エネルギー材料デバイス工学セミナー2B (2.0単位) | |
|-----------------------------|---|
| 科目区分 | 主専攻科目 |
| 課程区分 | 後期課程 |
| 授業形態 | セミナー |
| 対象履修コース | エネルギー理工学専攻 |
| 開講時期1 | 1年後期 |
| 教員 | 吉田 隆 教授 藤田 隆明 教授 庄司 多津男 准教授 一野 祐亮 准教授 有本 英樹 助教 |

●本講座の目的およびねらい
超伝導技術、エネルギー変換技術、プラズマ工学などエネルギー材料の基礎についてセミナーを行う。

●バックグラウンドとなる科目
電気磁気学、物理学基礎、固体電子工学、原子炉材料学、プラズマ理工学

●授業内容
1. エネルギー変換の化学と物理 2. エネルギー材料とプラズマ理工学

●教科書

●参考書

●評価方法と基準
セミナー中での発表及び議論

●履修条件・注意事項

●質問への対応

| エネルギー材料デバイス工学セミナー2C (2.0単位) | |
|-----------------------------|---|
| 科目区分 | 主専攻科目 |
| 課程区分 | 後期課程 |
| 授業形態 | セミナー |
| 対象履修コース | エネルギー理工学専攻 |
| 開講時期1 | 2年前期 |
| 教員 | 吉田 隆 教授 藤田 隆明 教授 庄司 多津男 准教授 一野 祐亮 准教授 有本 英樹 助教 |

●本講座の目的およびねらい
超伝導技術、エネルギー変換技術、プラズマ工学などエネルギー材料の基礎についてセミナーを行う。

●バックグラウンドとなる科目
電気磁気学、物理学基礎、固体電子工学、原子炉材料学、プラズマ理工学

●授業内容
1. エネルギー変換の化学と物理 2. エネルギー材料とプラズマ理工学

●教科書

●参考書

●評価方法と基準
セミナー中での発表及び議論

●履修条件・注意事項

●質問への対応

| エネルギー材料デバイス工学セミナー2D (2.0単位) | |
|-----------------------------|---|
| 科目区分 | 主専攻科目 |
| 課程区分 | 後期課程 |
| 授業形態 | セミナー |
| 対象履修コース | エネルギー理工学専攻 |
| 開講時期1 | 2年後期 |
| 教員 | 吉田 隆 教授 藤田 隆明 教授 庄司 多津男 准教授 一野 祐亮 准教授 有本 英樹 助教 |

●本講座の目的およびねらい
超伝導技術、エネルギー変換技術、プラズマ工学などエネルギー材料の基礎についてセミナーを行う。

●バックグラウンドとなる科目
電気磁気学、物理学基礎、固体電子工学、原子炉材料学、プラズマ理工学

●授業内容
1. エネルギー変換の化学と物理 2. エネルギー材料とプラズマ理工学

●教科書

●参考書

●評価方法と基準
セミナー中での発表及び議論

●履修条件・注意事項

●質問への対応

| エネルギー材料デバイス工学セミナー2E (2.0単位) | |
|---|---|
| 科目区分 | 主専攻科目 |
| 課程区分 | 後期課程 |
| 授業形態 | セミナー |
| 対象履修コース | エネルギー理工学専攻 |
| 開講時期1 | 3年前期 |
| 教員 | 吉田 隆教授 藤田 隆明教授 庄司 多津男 准教授 一野 祐亮 准教授 有本 英樹 助教 |
| <p>●本講座の目的およびねらい 超伝導技術、エネルギー変換技術、プラズマ工学などエネルギー材料の基礎についてセミナーを行う。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 電気磁気学、物理学基礎、固体電子工学、原子炉材料学、プラズマ工学</p> <p>●授業内容 1. エネルギー変換の化学と物理 2. エネルギー材料とプラズマ工学</p> <p>●教科書</p> <p>●参考書</p> <p>●評価方法と基準 セミナー中での発表及び議論</p> <p>●履修条件・注意事項</p> <p>●質問への対応</p> | |

| 熱エネルギーシステム工学セミナー2A (2.0単位) | |
|--|---|
| 科目区分 | 主専攻科目 |
| 課程区分 | 後期課程 |
| 授業形態 | セミナー |
| 対象履修コース | エネルギー理工学専攻 |
| 開講時期1 | 1年前期 |
| 教員 | 松田 仁樹教授 辻 義之教授 伊藤 高啓 准教授 出口 清一 講師 窪田 光宏 助教 |
| <p>●本講座の目的およびねらい エネルギー変換、利用に関わる多様な熱流体現象について理解し、問題解決能力を高める。また、環境調和型廃棄物物理技術や蓄熱・ヒートポンプ技術などについても対象とする。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 流体力学、熱力学、伝熱工学、移動現象論</p> <p>●授業内容 関連の教科書及び文献の輪講</p> <p>●教科書 なし</p> <p>●参考書 適宜、紹介する</p> <p>●評価方法と基準 レポート及び口頭発表 (S: 100~90点, A: 89~80点, B: 79~70点, C: 69~60点, F: 59点以下)</p> <p>●履修条件・注意事項</p> <p>●質問への対応 適宜、質問を授業時間内および居室にて受け付ける</p> | |

| 熱エネルギーシステム工学セミナー2B (2.0単位) | |
|--|---|
| 科目区分 | 主専攻科目 |
| 課程区分 | 後期課程 |
| 授業形態 | セミナー |
| 対象履修コース | エネルギー理工学専攻 |
| 開講時期1 | 1年後期 |
| 教員 | 松田 仁樹教授 辻 義之教授 伊藤 高啓 准教授 出口 清一 講師 窪田 光宏 助教 |
| <p>●本講座の目的およびねらい エネルギー変換、利用に関わる多様な熱流体現象について理解し、問題解決能力を高める。また、環境調和型廃棄物物理技術や蓄熱・ヒートポンプ技術などについても対象とする。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 流体力学、熱力学、伝熱工学、移動現象論</p> <p>●授業内容 関連の教科書及び文献の輪講</p> <p>●教科書 なし</p> <p>●参考書 適宜、紹介する</p> <p>●評価方法と基準 レポート及び口頭発表 (S: 100~90点, A: 89~80点, B: 79~70点, C: 69~60点, F: 59点以下)</p> <p>●履修条件・注意事項</p> <p>●質問への対応 適宜、質問を授業時間内および居室にて受け付ける</p> | |

| 熱エネルギーシステム工学セミナー2C (2.0単位) | |
|--|---|
| 科目区分 | 主専攻科目 |
| 課程区分 | 後期課程 |
| 授業形態 | セミナー |
| 対象履修コース | エネルギー理工学専攻 |
| 開講時期1 | 2年前期 |
| 教員 | 松田 仁樹教授 辻 義之教授 伊藤 高啓 准教授 出口 清一 講師 窪田 光宏 助教 |
| <p>●本講座の目的およびねらい エネルギー変換、利用に関わる多様な熱流体現象について理解し、問題解決能力を高める。また、環境調和型廃棄物物理技術や蓄熱・ヒートポンプ技術などについても対象とする。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 流体力学、熱力学、伝熱工学、移動現象論</p> <p>●授業内容 関連の教科書及び文献の輪講</p> <p>●教科書 なし</p> <p>●参考書 適宜、紹介する</p> <p>●評価方法と基準 レポート及び口頭発表 (S: 100~90点, A: 89~80点, B: 79~70点, C: 69~60点, F: 59点以下)</p> <p>●履修条件・注意事項</p> <p>●質問への対応 適宜、質問を授業時間内および居室にて受け付ける</p> | |

| 熱エネルギーシステム工学セミナー 2D (2.0単位) | |
|--|---|
| 科目区分 | 主専攻科目 |
| 課程区分 | 後期課程 |
| 授業形態 | セミナー |
| 対象履修コース | エネルギー理工学専攻 |
| 開講時期1 | 2年後期 |
| 教員 | 松田 仁樹 教授 辻 義之 教授 伊藤 高啓 准教授 出口 清一 講師 窪田 光宏 助教 |
| <p>●本講座の目的およびねらい エネルギー変換、利用に関わる多様な熱流体現象について理解し、問題解決能力を高める。また、環境調和型廃棄物処理技術や蓄熱・ヒートポンプ技術などについても対象とする。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 流体力学、熱力学、伝熱工学、移動現象論</p> <p>●授業内容 関連の教科書及び文献の輪講</p> <p>●教科書 なし</p> <p>●参考書 適宜、紹介する</p> <p>●評価方法と基準 レポート及び口頭発表 (S: 100~90点, A: 89~80点, B: 79~70点, C: 69~60点, F: 59点以下)</p> <p>●履修条件・注意事項</p> <p>●質問への対応 適宜、質問を授業時間内および居室にて受け付ける</p> | |

| 熱エネルギーシステム工学セミナー 2E (2.0単位) | |
|---|---|
| 科目区分 | 主専攻科目 |
| 課程区分 | 後期課程 |
| 授業形態 | セミナー |
| 対象履修コース | エネルギー理工学専攻 |
| 開講時期1 | 3年前期 |
| 教員 | 松田 仁樹 教授 辻 義之 教授 伊藤 高啓 准教授 出口 清一 講師 窪田 光宏 助教 |
| <p>●本講座の目的およびねらい エネルギー変換、利用に関わる多様な熱流体現象について理解し、問題解決能力を高める。また、環境調和型廃棄物処理技術や蓄熱・ヒートポンプ技術などについても対象とする。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 流体力学、熱力学、伝熱工学、移動現象論</p> <p>●授業内容 関連の教科書及び文献の輪講</p> <p>●教科書 なし</p> <p>●参考書 適宜、紹介する</p> <p>●評価方法と基準 レポート及び口頭発表 (A: 100~80点, B: 79~70点, C: 69~60点, F: 59点以下)</p> <p>●履修条件・注意事項</p> <p>●質問への対応 適宜、質問を授業時間内および居室にて受け付ける</p> | |

| プラズマエネルギー理工学セミナー 2A (2.0単位) | |
|--|---|
| 科目区分 | 主専攻科目 |
| 課程区分 | 後期課程 |
| 授業形態 | セミナー |
| 対象履修コース | 電気工学分野 エネルギー理工学専攻 |
| 開講時期1 | 1年前期 1年前期 |
| 教員 | 久保 伸 教授 大野 哲靖 教授 渡邊 清政 教授 中村 浩章 教授 井戸 毅 准教授 梶田 信 准教授 柴原 竜弥 助教 |
| <p>●本講座の目的およびねらい 固体表面とプラズマとの相互作用あるいは核融合プラズマの磁気流体的平衡と不安定性あるいはプラズマ加熱に関するテキストを選び、輪講する。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 プラズマ理工学の基礎、核融合科学の基礎</p> <p>●授業内容 1. プラズマシースの形成; 2. 核融合プラズマの磁気流体平衡・安定性; 3. 磁気流体不安定性の非線形成長; 4. 電子サイクロトロン加熱</p> <p>●教科書</p> <p>●参考書</p> <p>●評価方法と基準 セミナーにおける口頭発表とそれに対する質疑応答により、目標達成度を評価する。総合点60点以上を合格とし、60点以上69点までをC、70点以上79点までをB、80点以上89点までをA、90点以上をSとする。但し、平成22年度以前の入・進学者については、80点以上をAとする。</p> <p>●履修条件・注意事項</p> <p>●質問への対応</p> | |

| プラズマエネルギー理工学セミナー 2B (2.0単位) | |
|---|---|
| 科目区分 | 主専攻科目 |
| 課程区分 | 後期課程 |
| 授業形態 | セミナー |
| 対象履修コース | 電気工学分野 エネルギー理工学専攻 |
| 開講時期1 | 1年後期 1年後期 |
| 教員 | 久保 伸 教授 大野 哲靖 教授 渡邊 清政 教授 中村 浩章 教授 井戸 毅 准教授 梶田 信 准教授 柴原 竜弥 助教 |
| <p>●本講座の目的およびねらい 固体表面とプラズマとの相互作用あるいは核融合プラズマの磁気流体的安定性と不安定性あるいはプラズマ加熱に関するテキストを選び、輪講する。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 プラズマ理工学の基礎、核融合科学の基礎</p> <p>●授業内容 1. 固体表面へのプラズマ熱流入; 2. 核融合プラズマにおける密度、温度及び圧力勾配による微視的不安定性; 3. 密度、温度及び圧力勾配駆動微視的不安定性による乱流輸送; 4. 低域混成波加熱</p> <p>●教科書</p> <p>●参考書</p> <p>●評価方法と基準 セミナーにおける口頭発表とそれに対する質疑応答により、目標達成度を評価する。総合点60点以上を合格とし、60点以上69点までをC、70点以上79点までをB、80点以上89点までをA、90点以上をSとする。但し、平成22年度以前の入・進学者については、80点以上をAとする。</p> <p>●履修条件・注意事項</p> <p>●質問への対応</p> | |

| プラズマエネルギー工学セミナー 2C (2.0単位) | |
|--|--|
| 科目区分 | 主専攻科目 |
| 課程区分 | 後期課程 |
| 授業形態 | セミナー |
| 対象履修コース | 電気工学分野 エネルギー工学専攻 |
| 開講時期 1 | 2年前期 2年前期 |
| 教員 | 久保 伸教授 大野 哲晴教授 渡邊 清政教授 中村 浩章教授 井戸 毅准教授 梶田 信准教授 兼原 竜弥助教 |
| <p>●本講座の目的およびねらい 固体表面とプラズマとの相互作用あるいは核融合プラズマの磁気流体的安定性と不安定性あるいはプラズマ加熱に関するテキストを選び、輪講する。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 プラズマ物理学の基礎、核融合科学の基礎</p> <p>●授業内容 1. 固体表面におけるプラズマ粒子の反射過程; 2. プラズマ対向固体壁の損耗と不純物発生; 3. リミター及び磁気ダイバータ; 4. イオンサイクロトロン加熱</p> <p>●教科書</p> <p>●参考書</p> <p>●評価方法と基準 セミナーにおける口頭発表とそれに対する質疑応答により、目標達成度を評価する。総合点60点以上を合格とし、60点以上69点までをC、70点以上79点までをB、80点以上89点までをA、90点以上をSとする。但し、平成22年度以前の入・進学者については、80点以上をAとする。</p> <p>●履修条件・注意事項</p> <p>●質問への対応</p> | |

| プラズマエネルギー工学セミナー 2D (2.0単位) | |
|--|--|
| 科目区分 | 主専攻科目 |
| 課程区分 | 後期課程 |
| 授業形態 | セミナー |
| 対象履修コース | 電気工学分野 エネルギー工学専攻 |
| 開講時期 1 | 2年後期 2年後期 |
| 教員 | 久保 伸教授 大野 哲晴教授 渡邊 清政教授 中村 浩章教授 井戸 毅准教授 梶田 信准教授 兼原 竜弥助教 |
| <p>●本講座の目的およびねらい 固体表面とプラズマとの相互作用あるいは核融合プラズマの磁気流体的安定性と不安定性あるいはプラズマ加熱に関するテキストを選び、輪講する。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 プラズマ物理学の基礎、核融合科学の基礎</p> <p>●授業内容 1. 熱プラズマの特性; 2. 電磁場による周辺プラズマ制御; 3. 閉じ込めの改善と乱流輸送の低減; 4. 非熱化粒子に関連したプラズマ物理; 5. アルファン波の伝搬とプラズマ加熱</p> <p>●教科書</p> <p>●参考書</p> <p>●評価方法と基準 セミナーにおける口頭発表とそれに対する質疑応答により、目標達成度を評価する。総合点60点以上を合格とし、60点以上69点までをC、70点以上79点までをB、80点以上89点までをA、90点以上をSとする。但し、平成22年度以前の入・進学者については、80点以上をAとする。</p> <p>●履修条件・注意事項</p> <p>●質問への対応</p> | |

| プラズマエネルギー工学セミナー 2E (2.0単位) | |
|---|--|
| 科目区分 | 主専攻科目 |
| 課程区分 | 後期課程 |
| 授業形態 | セミナー |
| 対象履修コース | 電気工学分野 エネルギー工学専攻 |
| 開講時期 1 | 3年前期 3年前期 |
| 教員 | 久保 伸教授 大野 哲晴教授 渡邊 清政教授 中村 浩章教授 井戸 毅准教授 梶田 信准教授 兼原 竜弥助教 |
| <p>●本講座の目的およびねらい プラズマ物理学におけるトピックス、固体表面とプラズマとの相互作用あるいは核融合プラズマの磁気流体的安定性と不安定性あるいはプラズマ加熱に関するテキストを選び、輪講する。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 プラズマ物理学の基礎、核融合科学の基礎</p> <p>●授業内容 1. 微粒子プラズマの科学; 2. 原子・分子過程; 3. 各種プラズマ診断法; 4. 炉心プラズマ条件; 5. 国際熱核融合実験炉</p> <p>●教科書</p> <p>●参考書</p> <p>●評価方法と基準 セミナーにおける口頭発表とそれに対する質疑応答により、目標達成度を評価する。総合点60点以上を合格とし、60点以上69点までをC、70点以上79点までをB、80点以上89点までをA、90点以上をSとする。但し、平成22年度以前の入・進学者については、80点以上をAとする。</p> <p>●履修条件・注意事項</p> <p>●質問への対応</p> | |

| エネルギー環境工学セミナー 2A (2.0単位) | |
|---|-------------------------|
| 科目区分 | 主専攻科目 |
| 課程区分 | 後期課程 |
| 授業形態 | セミナー |
| 対象履修コース | 量子エネルギー工学分野 エネルギー工学専攻 |
| 開講時期 1 | 1年前期 1年前期 |
| 教員 | 山添 弘実教授 森泉 純准教授 平尾 茂一助教 |
| <p>●本講座の目的およびねらい 博士論文に関連する小テーマを与え、その解答を得るために文献調査と実験的・理論的研究を指導教員との議論しながら進めることにより、独自に問題発見・解決する能力、研究の方向を定め進捗を制御する能力、問題に独創的に取り組む能力を養う。達成目標: エネルギー環境分野の独立した研究者として独自に貢献力を持って研究を進めることができる。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 保健物理学、放射線計測学、移動現象論</p> <p>●授業内容 以下の分野のいずれかについて博士論文を作成するために、関連する分野の基礎的事項を整理し把握した上で、文献レビュー、研究の方針、方法および進捗について発表および議論を行う。 : 1. 放射線防護; 2. 環境放射能・放射線; 3. エネルギー使用と環境安全; 4. 物質循環と環境問題</p> <p>●教科書 輪講する教科書については、年度初めに適宜選定する。論文については、セミナーの進行に合わせて論文を適宜選定する。</p> <p>●参考書 なし</p> <p>●評価方法と基準 セミナーにおける口頭発表とそれに対する質疑応答により、目標達成度を評価する。100点満点で60点以上を合格とする</p> <p>●履修条件・注意事項</p> <p>●質問への対応 講義終了時に対応する。 内線 3781 yamazawa@nucl.nagoya-u.ac.jp</p> | |

エネルギー環境工学セミナー 2 B (2.0単位)

| | |
|---------|----------------------------|
| 科目区分 | 主専攻科目 |
| 課程区分 | 後期課程 |
| 授業形態 | セミナー |
| 対象履修コース | 量子エネルギー工学分野 エネルギー理工学専攻 |
| 開講時期 1 | 1年後期 |
| 教員 | 山澤 弘実 教授 森泉 純 准教授 平尾 茂一 助教 |

- 本講座の目的およびねらい
博士論文に関連する小テーマを与え、その解答を得るために文献調査と実験的・理論的研究を指導教員との議論しながら進めることにより、独自に問題発見・解決する能力、研究の方向を定め進捗を制御する能力、問題に俯瞰力を持って独創的に取り組む能力を養う。:達成目標:エネルギー環境分野の独立した研究者として独自に研究を進めることができる。
- バックグラウンドとなる科目
保健物理学、放射線計測学、移動現象論
- 授業内容
以下の分野のいずれかについて博士論文を作成するために、関連する分野の基礎的事項を翌年に把握した上で、文献レビュー、研究の方針、方法および進捗について発表および議論を行う。
:1. 放射線防護:2. 環境放射能・放射線:3. エネルギー使用と環境安全:4. 物質循環と環境問題
- 教科書
輪読する教科書については、年度初めに適宜選定する。論文については、セミナーの進行に合わせて論文を適宜選定する。
- 参考書
なし
- 評価方法と基準
セミナーにおける口頭発表とそれに対する質疑応答により、目標達成度を評価する。100点満点で60点以上を合格とする。
- 履修条件・注意事項
- 質問への対応
講義終了時に対応する。担当教員連絡先:内線 5134 yanazawa@nucl.nagoya-u.ac.jp

エネルギー環境工学セミナー 2 C (2.0単位)

| | |
|---------|----------------------------|
| 科目区分 | 主専攻科目 |
| 課程区分 | 後期課程 |
| 授業形態 | セミナー |
| 対象履修コース | 量子エネルギー工学分野 エネルギー理工学専攻 |
| 開講時期 1 | 2年前期 |
| 教員 | 山澤 弘実 教授 森泉 純 准教授 平尾 茂一 助教 |

- 本講座の目的およびねらい
博士論文に関連する小テーマを与え、その解答を得るために文献調査と実験的・理論的研究を指導教員との議論しながら進めることにより、独自に問題発見・解決する能力、研究の方向を定め進捗を制御する能力、問題に俯瞰力を持って独創的に取り組む能力を養う。:達成目標:エネルギー環境分野の独立した研究者として独自に研究を進めることができる。
- バックグラウンドとなる科目
保健物理学、放射線計測学、移動現象論
- 授業内容
以下の分野のいずれかについて博士論文を作成するために、関連する分野の基礎的事項を翌年に把握した上で、文献レビュー、研究の方針、方法および進捗について発表および議論を行う。
:1. 放射線防護:2. 環境放射能・放射線:3. エネルギー使用と環境安全:4. 物質循環と環境問題
- 教科書
輪読する教科書については、年度初めに適宜選定する。論文については、セミナーの進行に合わせて論文を適宜選定する。
- 参考書
なし
- 評価方法と基準
セミナーにおける口頭発表とそれに対する質疑応答により、目標達成度を評価する。100点満点で60点以上を合格とする。
- 履修条件・注意事項
- 質問への対応
内線 3781 yanazawa@nucl.nagoya-u.ac.jp

エネルギー環境工学セミナー 2 D (2.0単位)

| | |
|---------|----------------------------|
| 科目区分 | 主専攻科目 |
| 課程区分 | 後期課程 |
| 授業形態 | セミナー |
| 対象履修コース | 量子エネルギー工学分野 エネルギー理工学専攻 |
| 開講時期 1 | 2年後期 |
| 教員 | 山澤 弘実 教授 森泉 純 准教授 平尾 茂一 助教 |

- 本講座の目的およびねらい
博士論文に関連する小テーマを与え、その解答を得るために文献調査と実験的・理論的研究を指導教員との議論しながら進めることにより、独自に問題発見・解決する能力、研究の方向を定め進捗を制御する能力、問題に俯瞰力を持って独創的に取り組む能力を養う。:達成目標:エネルギー環境分野の独立した研究者として独自に研究を進めることができる。
- バックグラウンドとなる科目
保健物理学、放射線計測学、移動現象論
- 授業内容
以下の分野のいずれかについて博士論文を作成するために、関連する分野の基礎的事項を翌年に把握した上で、文献レビュー、研究の方針、方法および進捗について発表および議論を行う。
:1. 放射線防護:2. 環境放射能・放射線:3. エネルギー使用と環境安全:4. 物質循環と環境問題
- 教科書
輪読する教科書については、年度初めに適宜選定する。論文については、セミナーの進行に合わせて論文を適宜選定する。
- 参考書
なし
- 評価方法と基準
セミナーにおける口頭発表とそれに対する質疑応答により、目標達成度を評価する。100点満点で60点以上を合格とする。
- 履修条件・注意事項
- 質問への対応
内線 3781 yanazawa@nucl.nagoya-u.ac.jp

エネルギー環境工学セミナー 2 E (2.0単位)

| | |
|---------|----------------------------|
| 科目区分 | 主専攻科目 |
| 課程区分 | 後期課程 |
| 授業形態 | セミナー |
| 対象履修コース | 量子エネルギー工学分野 エネルギー理工学専攻 |
| 開講時期 1 | 3年前期 |
| 教員 | 山澤 弘実 教授 森泉 純 准教授 平尾 茂一 助教 |

- 本講座の目的およびねらい
博士論文に関連する小テーマを与え、その解答を得るために文献調査と実験的・理論的研究を指導教員との議論しながら進めることにより、独自に問題発見・解決する能力、研究の方向を定め進捗を制御する能力、問題に俯瞰力を持って独創的に取り組む能力を養う。:達成目標:エネルギー環境分野の独立した研究者として独自に研究を進めることができる。
- バックグラウンドとなる科目
保健物理学、放射線計測学、移動現象論
- 授業内容
以下の分野のいずれかについて博士論文を作成するために、関連する分野の基礎的事項を翌年に把握した上で、文献レビュー、研究の方針、方法および進捗について発表および議論を行う。
:1. 放射線防護:2. 環境放射能・放射線:3. エネルギー使用と環境安全:4. 物質循環と環境問題
- 教科書
輪読する教科書については、年度初めに適宜選定する。論文については、セミナーの進行に合わせて論文を適宜選定する。
- 参考書
なし
- 評価方法と基準
セミナーにおける口頭発表とそれに対する質疑応答により、目標達成度を評価する。100点満点で60点以上を合格とする。
- 履修条件・注意事項
- 質問への対応
内線 3781 yanazawa@nucl.nagoya-u.ac.jp

国際協働プロジェクトセミナーII (2.0単位)

| | | | | | |
|---------|--------------|----------|-----------------|-----------|----------|
| 科目区分 | 主専攻科目 | | | | |
| 課程区分 | 後期課程 | | | | |
| 授業形態 | セミナー | | | | |
| 対象履修コース | 応用化学分野 | 分子化学工学分野 | 生物機能工学分野 | 材料工学分野 | 応用物理工学分野 |
| | 量子エネルギー工学分野 | 電気工学分野 | 電子工学分野 | 情報・通信工学分野 | 機械科学分野 |
| | 機械情報システム工学分野 | 電子機械工学分野 | 航空宇宙工学分野 | 社会基礎工学分野 | 結晶材料工学専攻 |
| | エネルギー理工学専攻 | 量子工学専攻 | マイクロ・ナノシステム工学専攻 | 物質制御工学専攻 | 計算理工学専攻 |
| 開講時期1 | 1年前後期 | 1年前後期 | 1年前後期 | 1年前後期 | 1年前後期 |
| 開講時期2 | 2年前後期 | 2年前後期 | 2年前後期 | 2年前後期 | 2年前後期 |
| 教員 | 各教員(世界展開力) | | | | |

- 本講座の目的およびねらい
総合力・国際力を持って国際舞台で活躍できる人材を育成するために、海外の研究開発を実体験する。工学に関する共同研究を通して基礎知識、研究能力、コミュニケーション能力の向上を目指す。
- バックグラウンドとなる科目
工学全般、英語、技術英語
- 授業内容
海外の研究機関等での研究開発現場を体験する。指導教員からの定期的な指導を受け、レポート提出などを行う。帰国後、海外の担当教員から研究活動の内容及び指導成果の報告を受け、総合評価を受ける。
- 教科書
研究内容に応じ指導教員から指定される。
- 参考書
- 評価方法と基準
指導教員を含む担当教員グループの合議により、国際協働研究における基礎知識・研究能力・コミュニケーション能力などについて、プログラムが定める評価基準に従って総合評価する。合格と評価された場合、中期プログラムで、6か月程度海外の研究機関等で研究に従事した場合、2単位長期プログラムで、12か月程度海外の研究機関等で研究に従事した場合、4単位が認められる。
- 履修条件・注意事項
プログラムに参加する学生のみを対象とする。
- 質問への対応

国際協働プロジェクトセミナーII (4.0単位)

| | | | | | |
|---------|--------------|----------|-----------------|-----------|----------|
| 科目区分 | 主専攻科目 | | | | |
| 課程区分 | 後期課程 | | | | |
| 授業形態 | セミナー | | | | |
| 対象履修コース | 応用化学分野 | 分子化学工学分野 | 生物機能工学分野 | 材料工学分野 | 応用物理工学分野 |
| | 量子エネルギー工学分野 | 電気工学分野 | 電子工学分野 | 情報・通信工学分野 | 機械科学分野 |
| | 機械情報システム工学分野 | 電子機械工学分野 | 航空宇宙工学分野 | 社会基礎工学分野 | 結晶材料工学専攻 |
| | エネルギー理工学専攻 | 量子工学専攻 | マイクロ・ナノシステム工学専攻 | 物質制御工学専攻 | 計算理工学専攻 |
| 開講時期1 | 1年前後期 | 1年前後期 | 1年前後期 | 1年前後期 | 1年前後期 |
| 開講時期2 | 2年前後期 | 2年前後期 | 2年前後期 | 2年前後期 | 2年前後期 |
| 教員 | 各教員(世界展開力) | | | | |

- 本講座の目的およびねらい
総合力・国際力を持って国際舞台で活躍できる人材を育成するために、海外の研究開発を実体験する。工学に関する共同研究を通して基礎知識、研究能力、コミュニケーション能力の向上を目指す。
- バックグラウンドとなる科目
工学全般、英語、技術英語
- 授業内容
海外の研究機関等での研究開発現場を体験する。指導教員からの定期的な指導を受け、レポート提出などを行う。帰国後、海外の担当教員から研究活動の内容及び指導成果の報告を受け、総合評価を受ける。
- 教科書
研究内容に応じ指導教員から指定される。
- 参考書
- 評価方法と基準
指導教員を含む担当教員グループの合議により、国際協働研究における基礎知識・研究能力・コミュニケーション能力などについて、プログラムが定める評価基準に従って総合評価する。合格と評価された場合、中期プログラムで、6か月程度海外の研究機関等で研究に従事した場合、2単位長期プログラムで、12か月程度海外の研究機関等で研究に従事した場合、4単位が認められる。
- 履修条件・注意事項
プログラム参加者のみ
- 質問への対応

実験指導体験実習 1 (1.0単位)

| | |
|--------|----------|
| 科目区分 | 総合工学科目 |
| 課程区分 | 後期課程 |
| 授業形態 | 実習 |
| 全専攻・分野 | 共通 |
| 開講時期1 | 1年前後期 |
| 開講時期2 | 2年前後期 |
| 教員 | 田川 智彦 教授 |

- 本講座の目的およびねらい
ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー等の最先端理工学実験において、後期課程学生が実験指導を行うことを目的とする。この研究指導を通して、研究・教育及び指導者としての総合的な役割を果たすとともに、自身の指導者としての実践的な養成に役立てる。
- バックグラウンドとなる科目
特になし。
- 授業内容
高度総合工学創造実験において、実験結果の解釈、とりまとめ、発表・展示の指導をDirecting Professorの指導の元におこなう。
- 教科書
特になし。
- 参考書
特になし。
- ただし、授業時に適宜参考となる文献・資料を紹介する。
- 評価方法と基準
とりまとめと指導性により、目標達成度を評価する。100点満点で60点以上を合格とする。
- 履修条件・注意事項
- 質問への対応
授業時に対応する。

実験指導体験実習 2 (1.0単位)

| | |
|--------|-----------|
| 科目区分 | 総合工学科目 |
| 課程区分 | 後期課程 |
| 授業形態 | 実習 |
| 全専攻・分野 | 共通 |
| 開講時期1 | 1年前後期 |
| 開講時期2 | 2年前後期 |
| 教員 | 永野 修作 准教授 |

- 本講座の目的およびねらい
ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー等の最先端理工学実験において、後期課程学生が実験指導を行うことを目的とする。この研究指導を通して、研究・教育及び指導者としての総合的な役割を果たすとともに、自身の指導者としての実践的な養成に役立てる。
- バックグラウンドとなる科目
特になし。
- 授業内容
最先端理工学実験において、担当教員のもと、課題研究および独創研究の指導を行う。成果のまとめ方(レポート作成指導)、発表に至るまで担当の学生の指導者の役割を担う。
- 教科書
- 参考書
- 評価方法と基準
実験・演習のとりまとめと指導性(70%)、面接(30%)で評価する。100点満点で60点以上を合格とする。
- 履修条件・注意事項
- 質問への対応

| 研究インターンシップ2 (2.0単位) | |
|---|----------|
| 科目区分 | 総合工学科目 |
| 課程区分 | 後期課程 |
| 授業形態 | 実習 |
| 全専攻・分野 | 共通 |
| 開講時期1 | 1年前後期 |
| 開講時期2 | 2年前後期 |
| 教員 | 田川 智彦 教授 |
| <p>●本講座の目的およびねらい 就業体験を目的とする従来のインターンシップとは異なり、企業と大学が協力して博士後期課程に相応しい研究テーマを設定し、両者の指導の下で1～6ヶ月に亘る長期のインターンシップを実施する。それにより、より高度な専門分野に加え学際分野の研究開発能力を備えた人材と、研究企画・統括などに優れた見識を備えたリーダー的人材となる素養を身につける。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 「研究インターンシップ」を受講する学生に対しては、その事前指導として、短期的「特許および知的財産」を受講すること、「ベンチャービジネス特論1」または「同 11」を受講することが強く推奨される。</p> <p>●授業内容 ・企業と大学の協議のもとで設定された課題に学生が応募する。・学生・教員・企業指導者間で課題を調整したのち、大学で守秘義務・知的財産保護等に関する事前指導を受ける。また各自課題に取り組むための専門知識の獲得にも努める。・1～6ヶ月間企業に滞在しインターンシップを実施する。・終了後に、参加学生、大学教員、企業側指導者間で報告会と技術交流会を開催する。</p> <p>●教科書 特になし。</p> <p>●参考書 特になし。</p> <p>●評価方法と基準 企業において研究インターンシップに従事した総日数20日以下のものに与えられる。</p> <p>●履修条件・注意事項</p> <p>●質問への対応 研修時に直接指導するスタッフ等が随時対応。</p> | |

| 研究インターンシップ2 (3.0単位) | |
|--|----------|
| 科目区分 | 総合工学科目 |
| 課程区分 | 後期課程 |
| 授業形態 | 実習 |
| 全専攻・分野 | 共通 |
| 開講時期1 | 1年前後期 |
| 開講時期2 | 2年前後期 |
| 教員 | 田川 智彦 教授 |
| <p>●本講座の目的およびねらい 就業体験を目的とする従来のインターンシップとは異なり、企業と大学が協力して博士後期課程に相応しい研究テーマを設定し、両者の指導の下で1～6ヶ月に亘る長期のインターンシップを実施する。それにより、より高度な専門分野に加え学際分野の研究開発能力を備えた人材と、研究企画・統括などに優れた見識を備えたリーダー的人材となる素養を身につける。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 「研究インターンシップ」を受講する学生に対しては、その事前指導として、短期的「特許および知的財産」を受講すること、「ベンチャービジネス特論1」または「同 11」を受講することが強く推奨される。</p> <p>●授業内容 ・企業と大学の協議のもとで設定された課題に学生が応募する。・学生・教員・企業指導者間で課題を調整したのち、大学で守秘義務・知的財産保護等に関する事前指導を受ける。また各自課題に取り組むための専門知識の獲得にも努める。・1～6ヶ月間企業に滞在しインターンシップを実施する。・終了後に、参加学生、大学教員、企業側指導者間で報告会と技術交流会を開催する。</p> <p>●教科書 特になし。</p> <p>●参考書 特になし。</p> <p>●評価方法と基準 企業において研究インターンシップに従事した総日数21日以上40日以下のものに与えられる。</p> <p>●履修条件・注意事項</p> <p>●質問への対応 研修時に直接指導するスタッフ等が随時対応。</p> | |

| 研究インターンシップ2 (4.0単位) | |
|--|----------|
| 科目区分 | 総合工学科目 |
| 課程区分 | 後期課程 |
| 授業形態 | 実習 |
| 全専攻・分野 | 共通 |
| 開講時期1 | 1年前後期 |
| 開講時期2 | 2年前後期 |
| 教員 | 田川 智彦 教授 |
| <p>●本講座の目的およびねらい 就業体験を目的とする従来のインターンシップとは異なり、企業と大学が協力して博士後期課程に相応しい研究テーマを設定し、両者の指導の下で1～6ヶ月に亘る長期のインターンシップを実施する。それにより、より高度な専門分野に加え学際分野の研究開発能力を備えた人材と、研究企画・統括などに優れた見識を備えたリーダー的人材となる素養を身につける。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 「研究インターンシップ」を受講する学生に対しては、その事前指導として、短期的「特許および知的財産」を受講すること、「ベンチャービジネス特論1」または「同 11」を受講することが強く推奨される。</p> <p>●授業内容 ・企業と大学の協議のもとで設定された課題に学生が応募する。・学生・教員・企業指導者間で課題を調整したのち、大学で守秘義務・知的財産保護等に関する事前指導を受ける。また各自課題に取り組むための専門知識の獲得にも努める。・1～6ヶ月間企業に滞在しインターンシップを実施する。・終了後に、参加学生、大学教員、企業側指導者間で報告会と技術交流会を開催する。</p> <p>●教科書 特になし。</p> <p>●参考書 特になし。</p> <p>●評価方法と基準 企業において研究インターンシップに従事した総日数41日以上60日以下のものに与えられる。</p> <p>●履修条件・注意事項</p> <p>●質問への対応 研修時に直接指導するスタッフ等が随時対応。</p> | |

| 研究インターンシップ2 (6.0単位) | |
|--|----------|
| 科目区分 | 総合工学科目 |
| 課程区分 | 後期課程 |
| 授業形態 | 実習 |
| 全専攻・分野 | 共通 |
| 開講時期1 | 1年前後期 |
| 開講時期2 | 2年前後期 |
| 教員 | 田川 智彦 教授 |
| <p>●本講座の目的およびねらい 就業体験を目的とする従来のインターンシップとは異なり、企業と大学が協力して博士後期課程に相応しい研究テーマを設定し、両者の指導の下で1～6ヶ月に亘る長期のインターンシップを実施する。それにより、より高度な専門分野に加え学際分野の研究開発能力を備えた人材と、研究企画・統括などに優れた見識を備えたリーダー的人材となる素養を身につける。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 「研究インターンシップ」を受講する学生に対しては、その事前指導として、短期的「特許および知的財産」を受講すること、「ベンチャービジネス特論1」または「同 11」を受講することが強く推奨される。</p> <p>●授業内容 ・企業と大学の協議のもとで設定された課題に学生が応募する。・学生・教員・企業指導者間で課題を調整したのち、大学で守秘義務・知的財産保護等に関する事前指導を受ける。また各自課題に取り組むための専門知識の獲得にも努める。・1～6ヶ月間企業に滞在しインターンシップを実施する。・終了後に、参加学生、大学教員、企業側指導者間で報告会と技術交流会を開催する。</p> <p>●教科書 特になし。</p> <p>●参考書 特になし。</p> <p>●評価方法と基準 企業において研究インターンシップに従事した総日数61日以上80日以下のものに与えられる。</p> <p>●履修条件・注意事項</p> <p>●質問への対応 研修時に直接指導するスタッフ等が随時対応。</p> | |

研究インターンシップ2 (8.0単位)

| | |
|--------|----------|
| 科目区分 | 総合工学科目 |
| 課程区分 | 後期課程 |
| 授業形態 | 実習 |
| 全専攻・分野 | 共通 |
| 開講時期 1 | 1年前後期 |
| 開講時期 2 | 2年前後期 |
| 教員 | 田川 智彦 教授 |

- 本講座の目的およびねらい
就業体験を目的とする従来のインターンシップとは異なり、企業と大学が協力して博士後期課程に相応しい研究テーマを設定し、両者の指導の下で1～6ヶ月に亘る長期のインターンシップを実施する。それにより、より高度な専門分野に加え学際分野の研究開発能力を備えた人材と、研究企画・統括などに優れた見識を備えたリーダー的人材となる素養を身につける。
- バックグラウンドとなる科目
「研究インターンシップ」を受講する学生に対しては、その事前指導として、短期の「特許および知的財産」を受講すること、「ベンチャービジネス特論1」または「同 11」を受講することが強く推奨される。
- 授業内容
・企業と大学の協働のもとで設定された課題に学生が応募する。・学生・教員・企業指導者間で課題を調整したのち、大学で守秘義務・知的財産保護等に関する事前指導を受ける。また各自課題に取り組むための専門知識の獲得にも努める。・1～6ヶ月間企業に滞在しインターンシップを実施する。・終了後に、参加学生、大学教員、企業側指導者間で報告会と技術交流会を開催する。
- 教科書
特になし。
- 参考書
特になし。
- 評価方法と基準
企業において研究インターンシップに従事した総日数81日以上のもに与えられる。
- 履修条件・注意事項
- 質問への対応
研修時に直接指導するスタッフ等が随時対応。

実世界データ循環システム特論II (2.0単位)

| | |
|----------|--|
| 科目区分 | 総合工学科目 |
| 課程区分 | 後期課程 |
| 授業形態 | 講義 |
| 対象履修コース | 応用化学分野 分子化学工学分野 生物機能工学分野 材料工学分野 応用物理学分野 量子エネルギー工学分野 電気工学分野 電子工学分野 情報・通信工学分野 機械科学分野 機械情報システム工学分野 電子機械工学分野 航空宇宙工学分野 社会基盤工学分野 結晶材料工学専攻 エネルギー理工学専攻 量子工学専攻 マイクロ・ナノシステム工学専攻 物質制御工学専攻 計算理工学専攻 |
| 開講時期 1 | 1年後期 |
| 開講時期 2 | 1年後期 |
| 開講時期 3 | 1年後期 |
| 開講時期 4 | 1年後期 |
| 開講時期 5 | 1年後期 |
| 開講時期 6 | 1年後期 |
| 開講時期 7 | 1年後期 |
| 開講時期 8 | 1年後期 |
| 開講時期 9 | 1年後期 |
| 開講時期 10 | 1年後期 |
| 開講時期 11 | 1年後期 |
| 開講時期 12 | 1年後期 |
| 開講時期 13 | 1年後期 |
| 開講時期 14 | 1年後期 |
| 開講時期 15 | 1年後期 |
| 開講時期 16 | 1年後期 |
| 開講時期 17 | 1年後期 |
| 開講時期 18 | 1年後期 |
| 開講時期 19 | 1年後期 |
| 開講時期 20 | 1年後期 |
| 開講時期 21 | 1年後期 |
| 開講時期 22 | 1年後期 |
| 開講時期 23 | 1年後期 |
| 開講時期 24 | 1年後期 |
| 開講時期 25 | 1年後期 |
| 開講時期 26 | 1年後期 |
| 開講時期 27 | 1年後期 |
| 開講時期 28 | 1年後期 |
| 開講時期 29 | 1年後期 |
| 開講時期 30 | 1年後期 |
| 開講時期 31 | 1年後期 |
| 開講時期 32 | 1年後期 |
| 開講時期 33 | 1年後期 |
| 開講時期 34 | 1年後期 |
| 開講時期 35 | 1年後期 |
| 開講時期 36 | 1年後期 |
| 開講時期 37 | 1年後期 |
| 開講時期 38 | 1年後期 |
| 開講時期 39 | 1年後期 |
| 開講時期 40 | 1年後期 |
| 開講時期 41 | 1年後期 |
| 開講時期 42 | 1年後期 |
| 開講時期 43 | 1年後期 |
| 開講時期 44 | 1年後期 |
| 開講時期 45 | 1年後期 |
| 開講時期 46 | 1年後期 |
| 開講時期 47 | 1年後期 |
| 開講時期 48 | 1年後期 |
| 開講時期 49 | 1年後期 |
| 開講時期 50 | 1年後期 |
| 開講時期 51 | 1年後期 |
| 開講時期 52 | 1年後期 |
| 開講時期 53 | 1年後期 |
| 開講時期 54 | 1年後期 |
| 開講時期 55 | 1年後期 |
| 開講時期 56 | 1年後期 |
| 開講時期 57 | 1年後期 |
| 開講時期 58 | 1年後期 |
| 開講時期 59 | 1年後期 |
| 開講時期 60 | 1年後期 |
| 開講時期 61 | 1年後期 |
| 開講時期 62 | 1年後期 |
| 開講時期 63 | 1年後期 |
| 開講時期 64 | 1年後期 |
| 開講時期 65 | 1年後期 |
| 開講時期 66 | 1年後期 |
| 開講時期 67 | 1年後期 |
| 開講時期 68 | 1年後期 |
| 開講時期 69 | 1年後期 |
| 開講時期 70 | 1年後期 |
| 開講時期 71 | 1年後期 |
| 開講時期 72 | 1年後期 |
| 開講時期 73 | 1年後期 |
| 開講時期 74 | 1年後期 |
| 開講時期 75 | 1年後期 |
| 開講時期 76 | 1年後期 |
| 開講時期 77 | 1年後期 |
| 開講時期 78 | 1年後期 |
| 開講時期 79 | 1年後期 |
| 開講時期 80 | 1年後期 |
| 開講時期 81 | 1年後期 |
| 開講時期 82 | 1年後期 |
| 開講時期 83 | 1年後期 |
| 開講時期 84 | 1年後期 |
| 開講時期 85 | 1年後期 |
| 開講時期 86 | 1年後期 |
| 開講時期 87 | 1年後期 |
| 開講時期 88 | 1年後期 |
| 開講時期 89 | 1年後期 |
| 開講時期 90 | 1年後期 |
| 開講時期 91 | 1年後期 |
| 開講時期 92 | 1年後期 |
| 開講時期 93 | 1年後期 |
| 開講時期 94 | 1年後期 |
| 開講時期 95 | 1年後期 |
| 開講時期 96 | 1年後期 |
| 開講時期 97 | 1年後期 |
| 開講時期 98 | 1年後期 |
| 開講時期 99 | 1年後期 |
| 開講時期 100 | 1年後期 |
| 開講時期 101 | 1年後期 |
| 開講時期 102 | 1年後期 |
| 開講時期 103 | 1年後期 |
| 開講時期 104 | 1年後期 |
| 開講時期 105 | 1年後期 |
| 開講時期 106 | 1年後期 |
| 開講時期 107 | 1年後期 |
| 開講時期 108 | 1年後期 |
| 開講時期 109 | 1年後期 |
| 開講時期 110 | 1年後期 |
| 開講時期 111 | 1年後期 |
| 開講時期 112 | 1年後期 |
| 開講時期 113 | 1年後期 |
| 開講時期 114 | 1年後期 |
| 開講時期 115 | 1年後期 |
| 開講時期 116 | 1年後期 |
| 開講時期 117 | 1年後期 |
| 開講時期 118 | 1年後期 |
| 開講時期 119 | 1年後期 |
| 開講時期 120 | 1年後期 |
| 開講時期 121 | 1年後期 |
| 開講時期 122 | 1年後期 |
| 開講時期 123 | 1年後期 |
| 開講時期 124 | 1年後期 |
| 開講時期 125 | 1年後期 |
| 開講時期 126 | 1年後期 |
| 開講時期 127 | 1年後期 |
| 開講時期 128 | 1年後期 |
| 開講時期 129 | 1年後期 |
| 開講時期 130 | 1年後期 |
| 開講時期 131 | 1年後期 |
| 開講時期 132 | 1年後期 |
| 開講時期 133 | 1年後期 |
| 開講時期 134 | 1年後期 |
| 開講時期 135 | 1年後期 |
| 開講時期 136 | 1年後期 |
| 開講時期 137 | 1年後期 |
| 開講時期 138 | 1年後期 |
| 開講時期 139 | 1年後期 |
| 開講時期 140 | 1年後期 |
| 開講時期 141 | 1年後期 |
| 開講時期 142 | 1年後期 |
| 開講時期 143 | 1年後期 |
| 開講時期 144 | 1年後期 |
| 開講時期 145 | 1年後期 |
| 開講時期 146 | 1年後期 |
| 開講時期 147 | 1年後期 |
| 開講時期 148 | 1年後期 |
| 開講時期 149 | 1年後期 |
| 開講時期 150 | 1年後期 |
| 開講時期 151 | 1年後期 |
| 開講時期 152 | 1年後期 |
| 開講時期 153 | 1年後期 |
| 開講時期 154 | 1年後期 |
| 開講時期 155 | 1年後期 |
| 開講時期 156 | 1年後期 |
| 開講時期 157 | 1年後期 |
| 開講時期 158 | 1年後期 |
| 開講時期 159 | 1年後期 |
| 開講時期 160 | 1年後期 |
| 開講時期 161 | 1年後期 |
| 開講時期 162 | 1年後期 |
| 開講時期 163 | 1年後期 |
| 開講時期 164 | 1年後期 |
| 開講時期 165 | 1年後期 |
| 開講時期 166 | 1年後期 |
| 開講時期 167 | 1年後期 |
| 開講時期 168 | 1年後期 |
| 開講時期 169 | 1年後期 |
| 開講時期 170 | 1年後期 |
| 開講時期 171 | 1年後期 |
| 開講時期 172 | 1年後期 |
| 開講時期 173 | 1年後期 |
| 開講時期 174 | 1年後期 |
| 開講時期 175 | 1年後期 |
| 開講時期 176 | 1年後期 |
| 開講時期 177 | 1年後期 |
| 開講時期 178 | 1年後期 |
| 開講時期 179 | 1年後期 |
| 開講時期 180 | 1年後期 |
| 開講時期 181 | 1年後期 |
| 開講時期 182 | 1年後期 |
| 開講時期 183 | 1年後期 |
| 開講時期 184 | 1年後期 |
| 開講時期 185 | 1年後期 |
| 開講時期 186 | 1年後期 |
| 開講時期 187 | 1年後期 |
| 開講時期 188 | 1年後期 |
| 開講時期 189 | 1年後期 |
| 開講時期 190 | 1年後期 |
| 開講時期 191 | 1年後期 |
| 開講時期 192 | 1年後期 |
| 開講時期 193 | 1年後期 |
| 開講時期 194 | 1年後期 |
| 開講時期 195 | 1年後期 |
| 開講時期 196 | 1年後期 |
| 開講時期 197 | 1年後期 |
| 開講時期 198 | 1年後期 |
| 開講時期 199 | 1年後期 |
| 開講時期 200 | 1年後期 |

- 本講座の目的およびねらい
- バックグラウンドとなる科目
- 授業内容
- 教科書
- 参考書
- 評価方法と基準
- 履修条件・注意事項
- 質問への対応

産学官プロジェクトワーク (2.0単位)

| | |
|----------|--|
| 科目区分 | 総合工学科目 |
| 課程区分 | 後期課程 |
| 授業形態 | 講義 |
| 対象履修コース | 応用化学分野 分子化学工学分野 生物機能工学分野 材料工学分野 応用物理学分野 量子エネルギー工学分野 電気工学分野 電子工学分野 情報・通信工学分野 機械科学分野 機械情報システム工学分野 電子機械工学分野 航空宇宙工学分野 社会基盤工学分野 結晶材料工学専攻 エネルギー理工学専攻 量子工学専攻 マイクロ・ナノシステム工学専攻 物質制御工学専攻 計算理工学専攻 |
| 開講時期 1 | 1年前後期 |
| 開講時期 2 | 1年前後期 |
| 開講時期 3 | 1年前後期 |
| 開講時期 4 | 1年前後期 |
| 開講時期 5 | 1年前後期 |
| 開講時期 6 | 1年前後期 |
| 開講時期 7 | 1年前後期 |
| 開講時期 8 | 1年前後期 |
| 開講時期 9 | 1年前後期 |
| 開講時期 10 | 1年前後期 |
| 開講時期 11 | 1年前後期 |
| 開講時期 12 | 1年前後期 |
| 開講時期 13 | 1年前後期 |
| 開講時期 14 | 1年前後期 |
| 開講時期 15 | 1年前後期 |
| 開講時期 16 | 1年前後期 |
| 開講時期 17 | 1年前後期 |
| 開講時期 18 | 1年前後期 |
| 開講時期 19 | 1年前後期 |
| 開講時期 20 | 1年前後期 |
| 開講時期 21 | 1年前後期 |
| 開講時期 22 | 1年前後期 |
| 開講時期 23 | 1年前後期 |
| 開講時期 24 | 1年前後期 |
| 開講時期 25 | 1年前後期 |
| 開講時期 26 | 1年前後期 |
| 開講時期 27 | 1年前後期 |
| 開講時期 28 | 1年前後期 |
| 開講時期 29 | 1年前後期 |
| 開講時期 30 | 1年前後期 |
| 開講時期 31 | 1年前後期 |
| 開講時期 32 | 1年前後期 |
| 開講時期 33 | 1年前後期 |
| 開講時期 34 | 1年前後期 |
| 開講時期 35 | 1年前後期 |
| 開講時期 36 | 1年前後期 |
| 開講時期 37 | 1年前後期 |
| 開講時期 38 | 1年前後期 |
| 開講時期 39 | 1年前後期 |
| 開講時期 40 | 1年前後期 |
| 開講時期 41 | 1年前後期 |
| 開講時期 42 | 1年前後期 |
| 開講時期 43 | 1年前後期 |
| 開講時期 44 | 1年前後期 |
| 開講時期 45 | 1年前後期 |
| 開講時期 46 | 1年前後期 |
| 開講時期 47 | 1年前後期 |
| 開講時期 48 | 1年前後期 |
| 開講時期 49 | 1年前後期 |
| 開講時期 50 | 1年前後期 |
| 開講時期 51 | 1年前後期 |
| 開講時期 52 | 1年前後期 |
| 開講時期 53 | 1年前後期 |
| 開講時期 54 | 1年前後期 |
| 開講時期 55 | 1年前後期 |
| 開講時期 56 | 1年前後期 |
| 開講時期 57 | 1年前後期 |
| 開講時期 58 | 1年前後期 |
| 開講時期 59 | 1年前後期 |
| 開講時期 60 | 1年前後期 |
| 開講時期 61 | 1年前後期 |
| 開講時期 62 | 1年前後期 |
| 開講時期 63 | 1年前後期 |
| 開講時期 64 | 1年前後期 |
| 開講時期 65 | 1年前後期 |
| 開講時期 66 | 1年前後期 |
| 開講時期 67 | 1年前後期 |
| 開講時期 68 | 1年前後期 |
| 開講時期 69 | 1年前後期 |
| 開講時期 70 | 1年前後期 |
| 開講時期 71 | 1年前後期 |
| 開講時期 72 | 1年前後期 |
| 開講時期 73 | 1年前後期 |
| 開講時期 74 | 1年前後期 |
| 開講時期 75 | 1年前後期 |
| 開講時期 76 | 1年前後期 |
| 開講時期 77 | 1年前後期 |
| 開講時期 78 | 1年前後期 |
| 開講時期 79 | 1年前後期 |
| 開講時期 80 | 1年前後期 |
| 開講時期 81 | 1年前後期 |
| 開講時期 82 | 1年前後期 |
| 開講時期 83 | 1年前後期 |
| 開講時期 84 | 1年前後期 |
| 開講時期 85 | 1年前後期 |
| 開講時期 86 | 1年前後期 |
| 開講時期 87 | 1年前後期 |
| 開講時期 88 | 1年前後期 |
| 開講時期 89 | 1年前後期 |
| 開講時期 90 | 1年前後期 |
| 開講時期 91 | 1年前後期 |
| 開講時期 92 | 1年前後期 |
| 開講時期 93 | 1年前後期 |
| 開講時期 94 | 1年前後期 |
| 開講時期 95 | 1年前後期 |
| 開講時期 96 | 1年前後期 |
| 開講時期 97 | 1年前後期 |
| 開講時期 98 | 1年前後期 |
| 開講時期 99 | 1年前後期 |
| 開講時期 100 | 1年前後期 |
| 開講時期 101 | 1年前後期 |
| 開講時期 102 | 1年前後期 |
| 開講時期 103 | 1年前後期 |
| 開講時期 104 | 1年前後期 |
| 開講時期 105 | 1年前後期 |
| 開講時期 106 | 1年前後期 |
| 開講時期 107 | 1年前後期 |
| 開講時期 108 | 1年前後期 |
| 開講時期 109 | 1年前後期 |
| 開講時期 110 | 1年前後期 |
| 開講時期 111 | 1年前後期 |
| 開講時期 112 | 1年前後期 |
| 開講時期 113 | 1年前後期 |
| 開講時期 114 | 1年前後期 |
| 開講時期 115 | 1年前後期 |
| 開講時期 116 | 1年前後期 |
| 開講時期 117 | 1年前後期 |
| 開講時期 118 | 1年前後期 |
| 開講時期 119 | 1年前後期 |
| 開講時期 120 | 1年前後期 |
| 開講時期 121 | 1年前後期 |
| 開講時期 122 | 1年前後期 |
| 開講時期 123 | 1年前後期 |
| 開講時期 124 | 1年前後期 |
| 開講時期 125 | 1年前後期 |
| 開講時期 126 | 1年前後期 |
| 開講時期 127 | 1年前後期 |
| 開講時期 128 | 1年前後期 |
| 開講時期 129 | 1年前後期 |
| 開講時期 130 | 1年前後期 |
| 開講時期 131 | 1年前後期 |
| 開講時期 132 | 1年前後期 |
| 開講時期 133 | 1年前後期 |
| 開講時期 134 | 1年前後期 |
| 開講時期 135 | 1年前後期 |
| 開講時期 136 | 1年前後期 |
| 開講時期 137 | 1年前後期 |
| 開講時期 138 | 1年前後期 |
| 開講時期 139 | 1年前後期 |
| 開講時期 140 | 1年前後期 |
| 開講時期 141 | 1年前後期 |
| 開講時期 142 | 1年前後期 |
| 開講時期 143 | 1年前後期 |
| 開講時期 144 | 1年前後期 |
| 開講時期 145 | 1年前後期 |
| 開講時期 146 | 1年前後期 |
| 開講時期 147 | 1年前後期 |
| 開講時期 148 | 1年前後期 |
| 開講時期 149 | 1年前後期 |
| 開講時期 150 | 1年前後期 |
| 開講時期 151 | 1年前後期 |
| 開講時期 152 | 1年前後期 |
| 開講時期 153 | 1年前後期 |
| 開講時期 154 | 1年前後期 |
| 開講時期 155 | 1年前後期 |
| 開講時期 156 | 1年前後期 |
| 開講時期 157 | 1年前後期 |
| 開講時期 158 | 1年前後期 |
| 開講時期 159 | 1年前後期 |
| 開講時期 160 | 1年前後期 |
| 開講時期 161 | 1年前後期 |
| 開講時期 162 | 1年前後期 |
| 開講時期 163 | 1年前後期 |
| 開講時期 164 | 1年前後期 |
| 開講時期 165 | 1年前後期 |
| 開講時期 166 | 1年前後期 |
| 開講時期 167 | 1年前後期 |
| 開講時期 168 | 1年前後期 |
| 開講時期 169 | 1年前後期 |
| 開講時期 170 | 1年前後期 |
| 開講時期 171 | 1年前後期 |
| 開講時期 172 | 1年前後期 |
| 開講時期 173 | 1年前後期 |
| 開講時期 174 | 1年前後期 |
| 開講時期 175 | 1年前後期 |
| 開講時期 176 | 1年前後期 |
| 開講時期 177 | 1年前後期 |
| 開講時期 178 | 1年前後期 |
| 開講時期 179 | 1年前後期 |
| 開講時期 180 | 1年前後期 |
| 開講時期 181 | 1年前後期 |
| 開講時期 182 | 1年前後期 |
| 開講時期 183 | 1年前後期 |
| 開講時期 184 | 1年前後期 |
| 開講時期 185 | 1年前後期 |
| 開講時期 186 | 1年前後期 |
| 開講時期 187 | 1年前後期 |
| 開講時期 188 | 1年前後期 |
| 開講時期 189 | 1年前後期 |
| 開講時期 190 | 1年前後期 |
| 開講時期 191 | 1年前後期 |
| 開講時期 192 | 1年前後期 |
| 開講時期 193 | 1年前後期 |
| 開講時期 194 | 1年前後期 |
| 開講時期 195 | 1年前後期 |
| 開講時期 196 | 1年前後期 |
| 開講時期 197 | 1年前後期 |
| 開講時期 198 | 1年前後期 |
| 開講時期 199 | 1年前後期 |
| 開講時期 200 | 1年前後期 |

- 本講座の目的およびねらい
- バックグラウンドとなる科目
- 授業内容
- 教科書
- 参考書
- 評価方法と基準
- 履修条件・注意事項
- 質問への対応